

## 2 日常生活

### (10) 生活満足度

生活満足度の分布を見ると、全体の80%以上が「満足」(45.7%)または「やや満足」(37.9%)と答えており、「不満」(5.8%)または「やや不満」(2.3%)と答える人は全体の10%に満たない。

問10 お住まいの地域の日常生活について、総合的に、どのように感じていますか

表10 生活満足度

	N	%
満足	181	45.7%
やや満足	150	37.9%
やや不満	23	5.8%
不満	9	2.3%
どちらともいえない	23	5.8%
無回答	10	2.5%
総計	396	100.0%

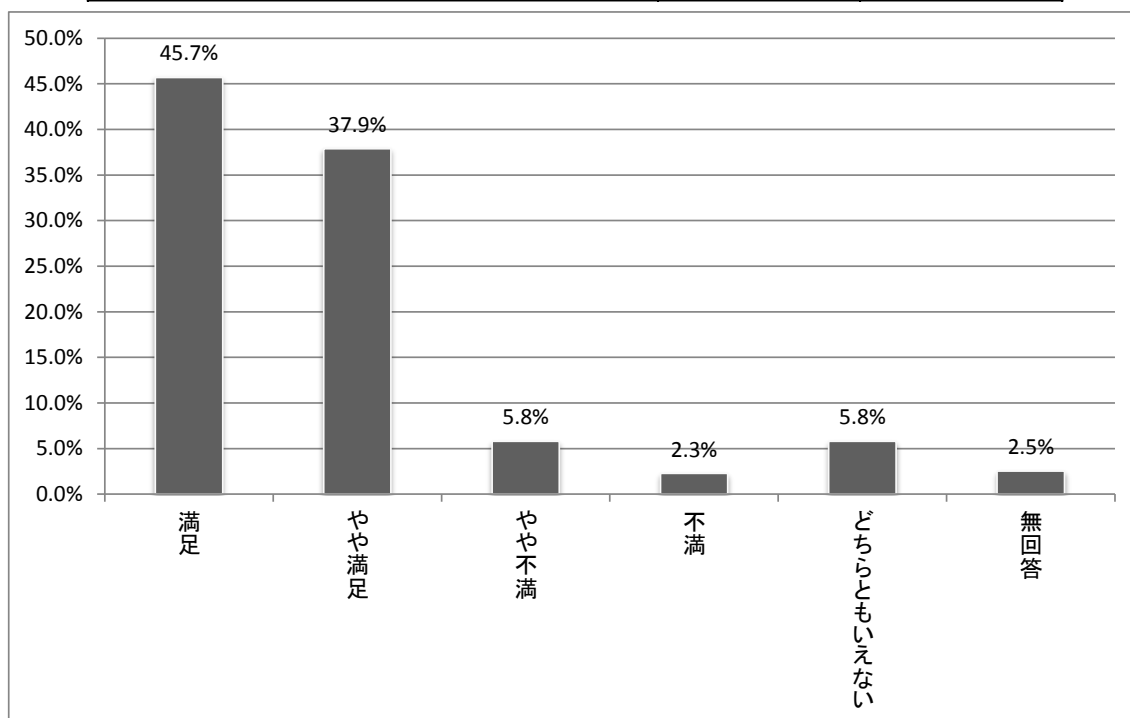


図10 生活満足度

居住地域別に生活満足度の分布を見ると、仙台市と気仙沼地域では50%以上が満足としたほか、満足、やや満足を合わせた回答は全ての地域で50%を超えた。一方、登米地域では不満・やや不満も50%を占めており、満足、やや満足と拮抗する形となっている。また、栗原地域ではどちらともいえないが23%と他の地域と比べ高くなっている。

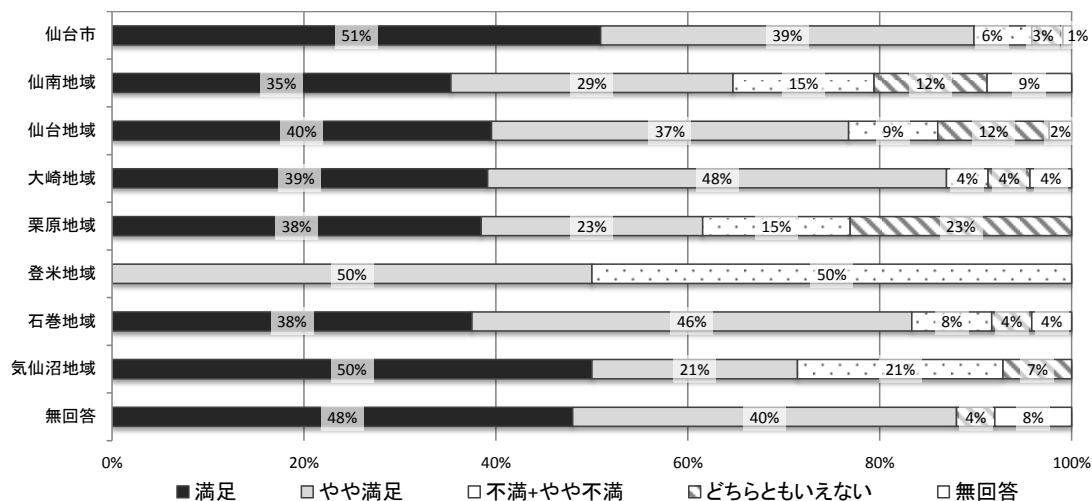


図10-2 居住地域別生活満足度の分布 (N=396)

在留資格別に生活満足度の分布を見ると、特別永住者、技能実習、家族滞在、教育、定住者では50%以上が満足としたほか、満足、やや満足を合わせた回答は全ての在留資格で50%を超えた。一方、教育では不満・やや不満が29%と他に比べ割合が高い。このほか日本人の配偶者、技能実習、教育ではどちらともいえないが10%以上を占めている。

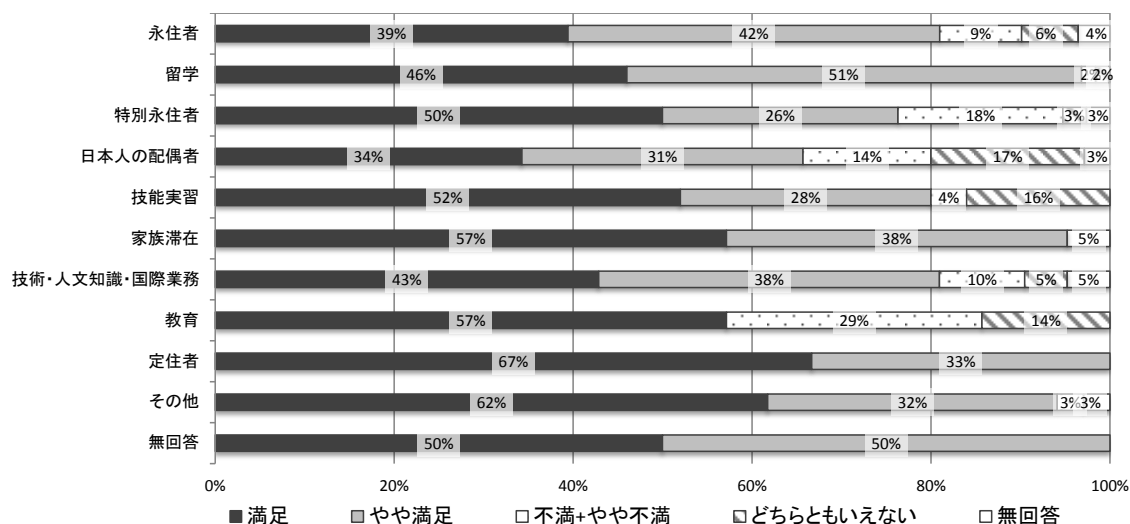


図10-3 在留資格別生活満足度の分布 (N=396)

就労形態別に生活満足度の分布を見ると、50%以上が満足としたのは無職（仕事を探していない）のみとなったが、満足とやや満足を合わせた回答は、全ての就労形態で70%を超えており、特に学生では97%となっている。不満・やや不満は経営者・自営、無職（仕事を探している）の2つで15%を超えたものの、どちらともいえないは全ての就労形態で10%未満となっている。

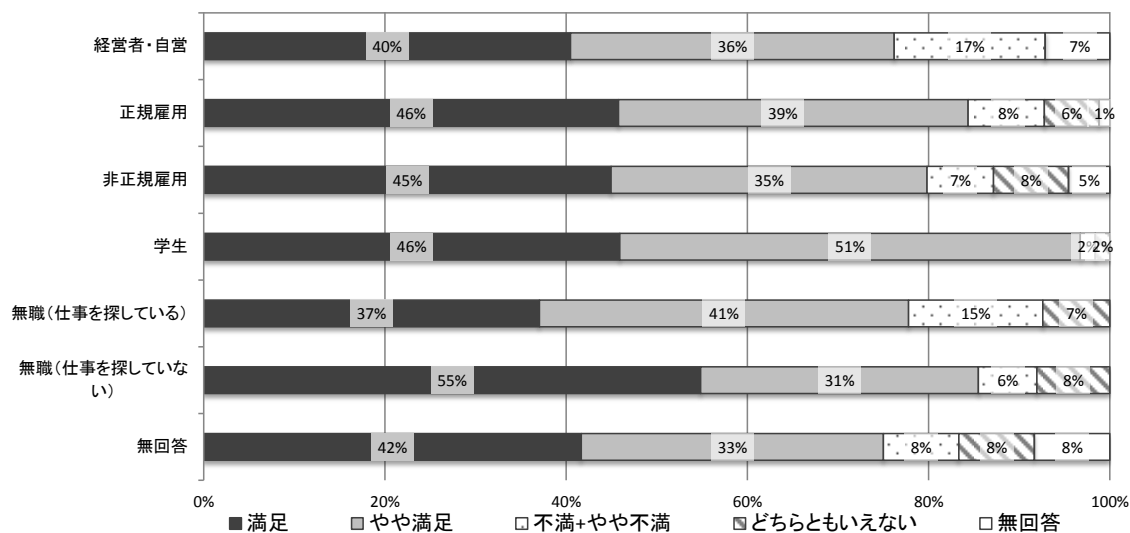


図10-4 就労形態別生活満足度の分布(N=396)

日本居住年数別に生活満足度の分布を見ると、満足は1年未満が最も高く61%となったものの、10年未満は35%に留まった。満足とやや満足を合わせた回答はすべての区分で70%を上回り、1年未満と5年未満では90%を超えている。不満・やや不満は20年未満で12%となったほか、10年未満、20年以上でも10%近くとなり、居住年数の長い区分で比較的割合が高い。

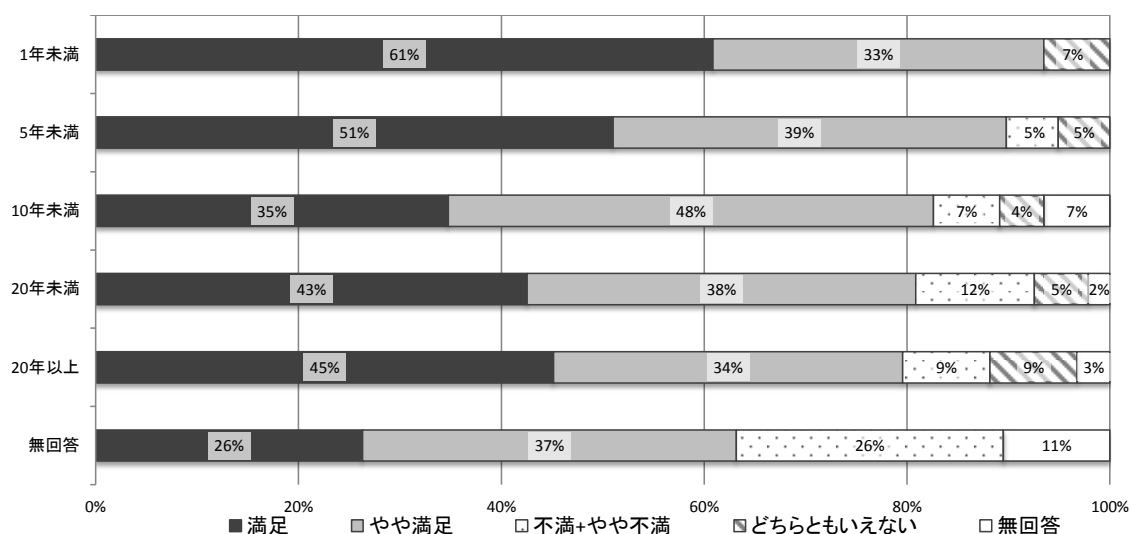


図10-5 日本居住年数別生活満足度の分布(N=396)

### (11) 個別の事柄の満足度

日常生活における個々の事項についての満足度の分布を見ると、生活情報や住環境、災害に対する備え、医療・福祉については、40%を上回る回答者が「満足」と回答し、「やや満足」と合わせると、80%程度となっている。これに対して、「近所付き合い」や「県や市町村が提供するサービス」については「満足」及び「やや満足」を合わせて約70%と満足度がやや低くなっており、「どちらともいえない」と回答する人が約16%となっている。

問 11 日常生活に関する次の個別の事柄について、どのように感じていますか

表 11 個別の事柄の満足度

	生活情報		住宅環境		災害に対する備え		医療・福祉		近所付き合い		県や市町村が提供するサービス	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
満足	159	40.2%	177	44.7%	188	47.5%	181	45.7%	126	31.8%	143	36.1%
やや満足	152	38.4%	141	35.6%	116	29.3%	129	32.6%	153	38.6%	134	33.8%
やや不満	26	6.6%	38	9.6%	34	8.6%	30	7.6%	25	6.3%	24	6.1%
不満	16	4.0%	13	3.3%	14	3.5%	15	3.8%	16	4.0%	18	4.5%
どちらともいえない	31	7.8%	16	4.0%	32	8.1%	30	7.6%	64	16.2%	66	16.7%
無回答	12	3.0%	11	2.8%	12	3.0%	11	2.8%	12	3.0%	11	2.8%
計	396	100%	396	100.0%	396	100%	396	100%	396	100%	396	100%

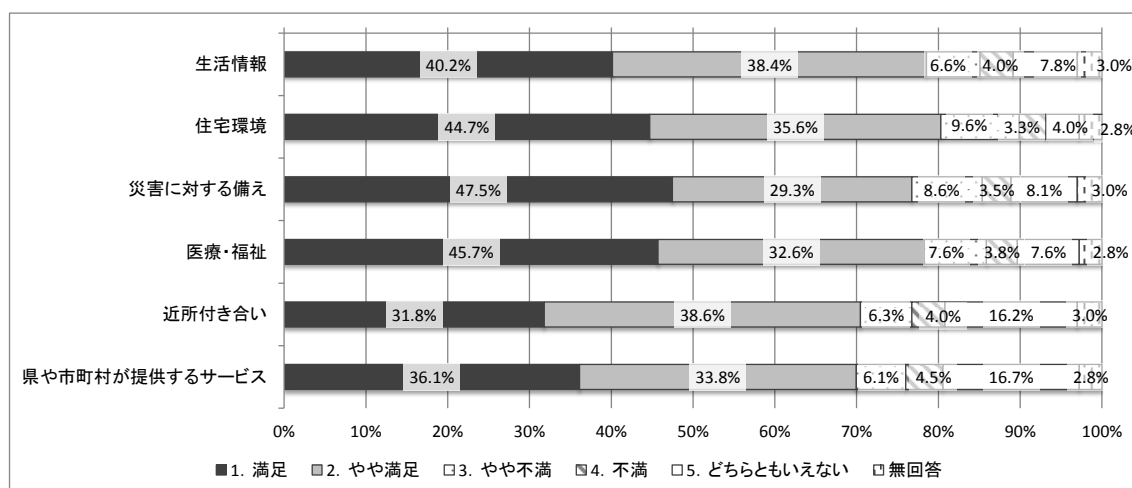


図 11 個別の事柄の満足度

① 生活情報

生活情報についての満足度を詳しく見ると、居住地域別では仙台市、大崎地域、栗原地域では不満・やや不満の回答が10%未満に留まったのに対して、登米地域と気仙沼地域では30%近くが不満・やや不満と回答している。在留資格別では日本人の配偶者と定住者で不満・やや不満の割合が17%となったが、技能実習で不満と感じる回答はなかった。国籍別ではフィリピン籍で不満・やや不満が17%と最も多いが、ベトナム籍で不満と感じる回答はなかった。日本語能力（読み）別では満足度に大きな差は見られなかった。

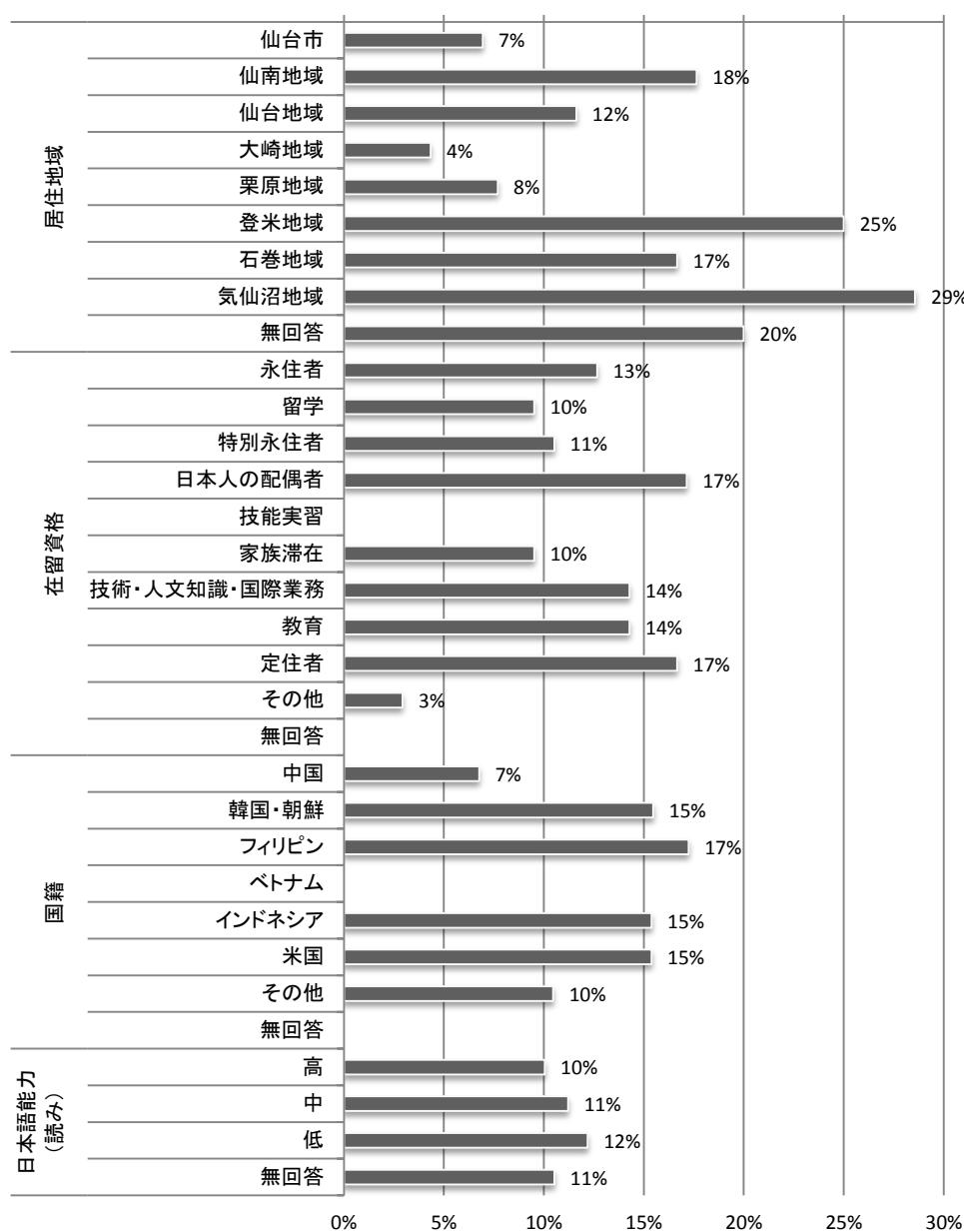


図11-2 生活情報が「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

## ② 住宅環境

住宅環境についての満足度を詳しく見ると、居住地域別では仙南地域、栗原地域では不満・やや不満が10%未満と割合が低いのに対し、登米地域、気仙沼地域では割合が20%を超えている。在留資格別で見ると教育で57%と不満・やや不満と感じている割合が特に高いほか、特別永住者でも21%となっているのに対し、技能実習で不満を感じる回答はなかった。国籍別では韓国・朝鮮籍で不満・やや不満が18%となっているのに対し、フィリピン、ベトナム、インドネシアでは10%未満に留まった。家族形態別では単身の不満・やや不満の割合が18%と最も高いが、配偶者との二世帯、子どものいる世帯、父母、祖父母などとの同居世帯と家族の世代が増えるにつれ不満の割合が低下する傾向にある。

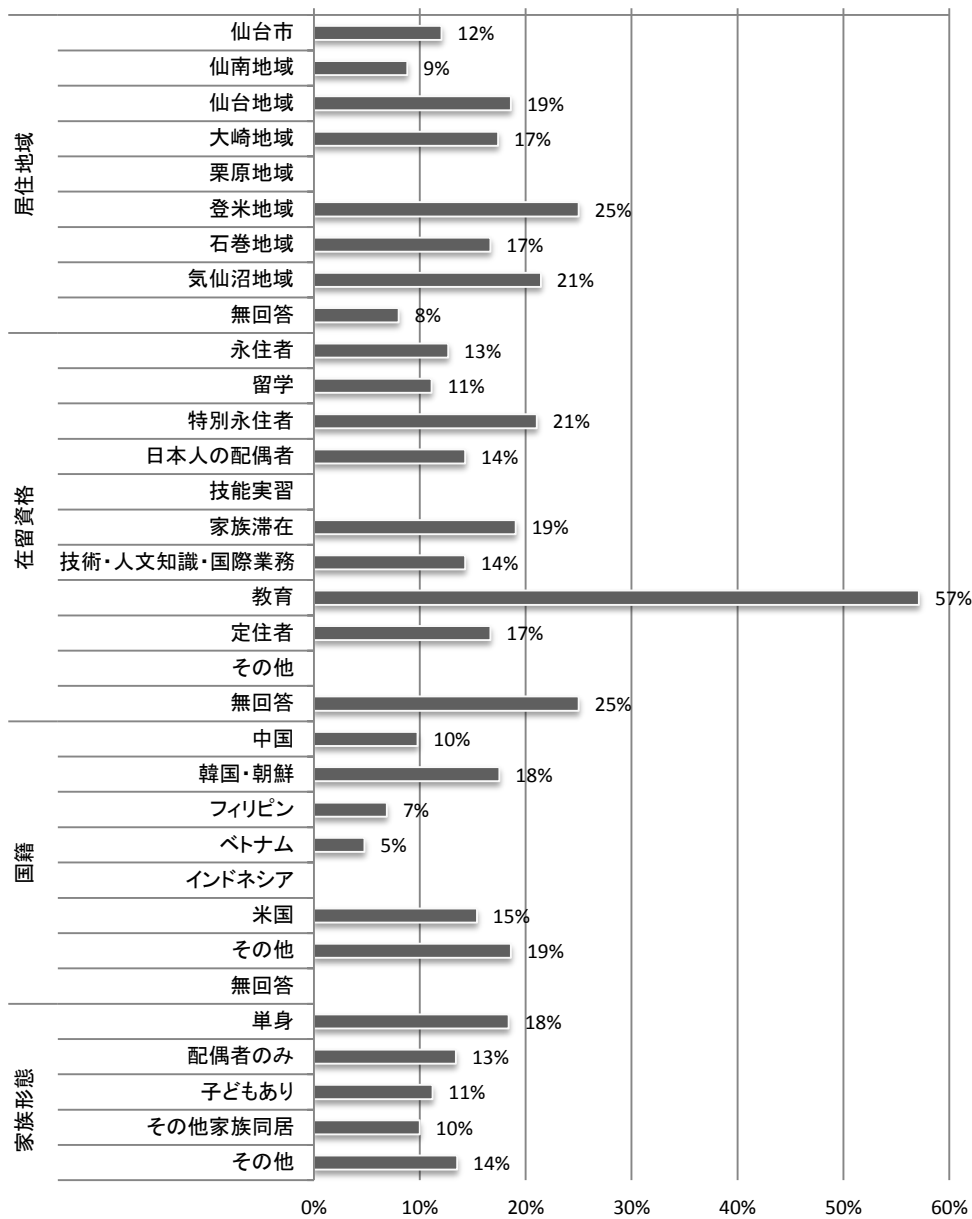


図11-3 住宅環境が「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

### ③ 災害に対する備え

災害に対する備えへの満足について詳しく見ると、居住地域別では登米地域で不満・やや不満の割合が50%と高くなったほか、石巻地域でも25%を占めているのに対し、仙南地域、大崎地域、栗原地域では10%未満となった。在留資格別では特別永住者の不満・やや不満の割合が18%となったのに対し、技能実習、技術・人文知識・国際業務は5%以下となり、教育では不満と感じる回答はなかった。国籍別では韓国・朝鮮籍で19%が不満・やや不満となったが、中国籍、ベトナム籍では10%未満となった。被災場所別では震災を経験している、していないに因らず、不満度に大きな差は見られない。

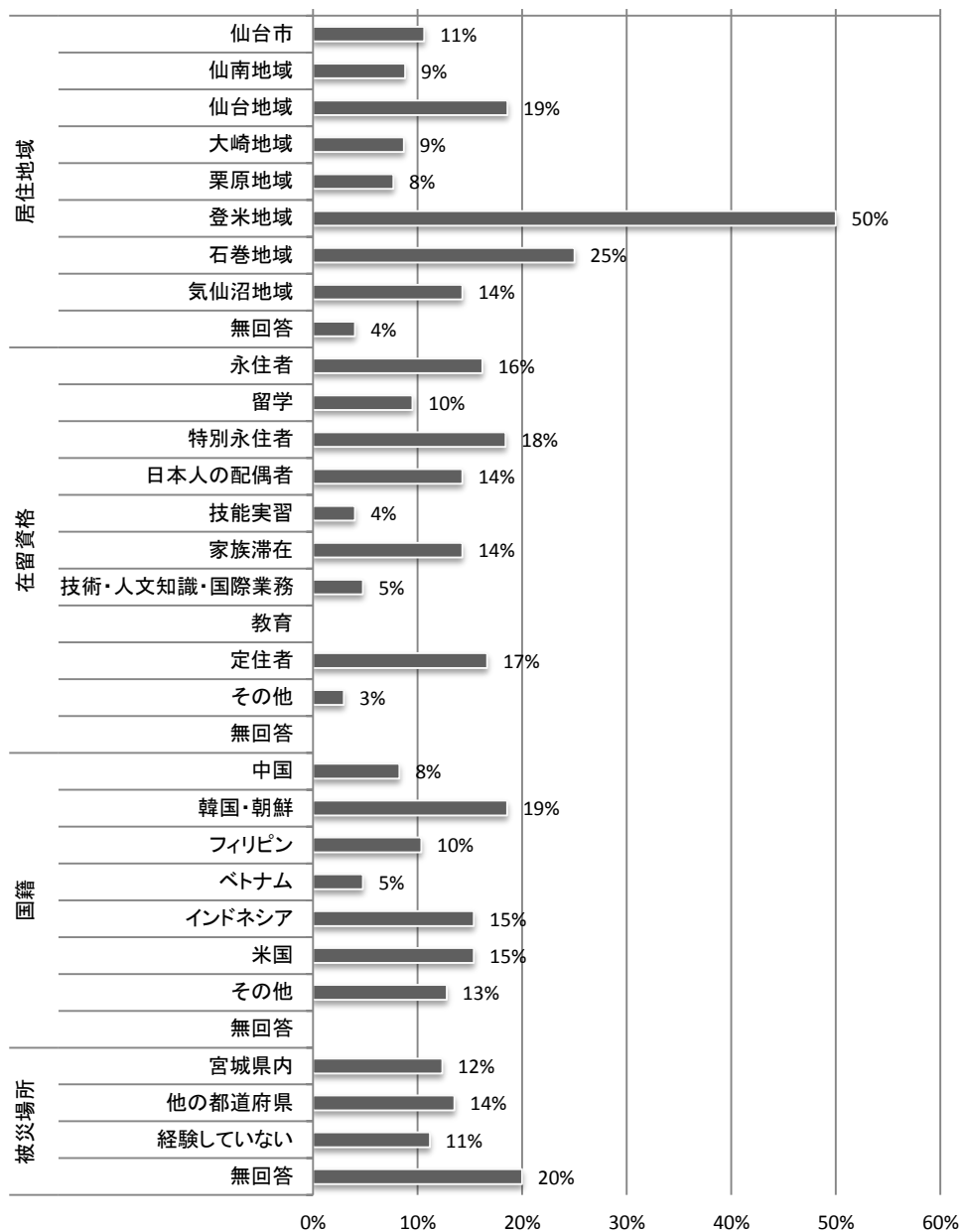


図11-4 災害に対する備えが「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

④ 医療・福祉

医療・福祉についての満足度を詳しく見ると、居住地域別では登米地域で不満・やや不満とする割合が50%となったのに対し、仙台市、大崎地域、栗原地域では10%未満に留まった。在留資格別では特別永住者の21%が不満・やや不満としたのに対し、留学、技能実習、家族滞在では10%未満となり、定住者では不満と感じる回答はなかった。国籍別では韓国・朝鮮籍で不満・やや不満とする回答が22%となったが、中国籍、フィリピン籍、ベトナム籍、インドネシア籍では10%未満となった。年齢別では60歳代で24%が不満・やや不満としたのに対し、20歳代、70歳代では10%未満に留まったほか、80歳代以上で不満と感じる回答はなかった。

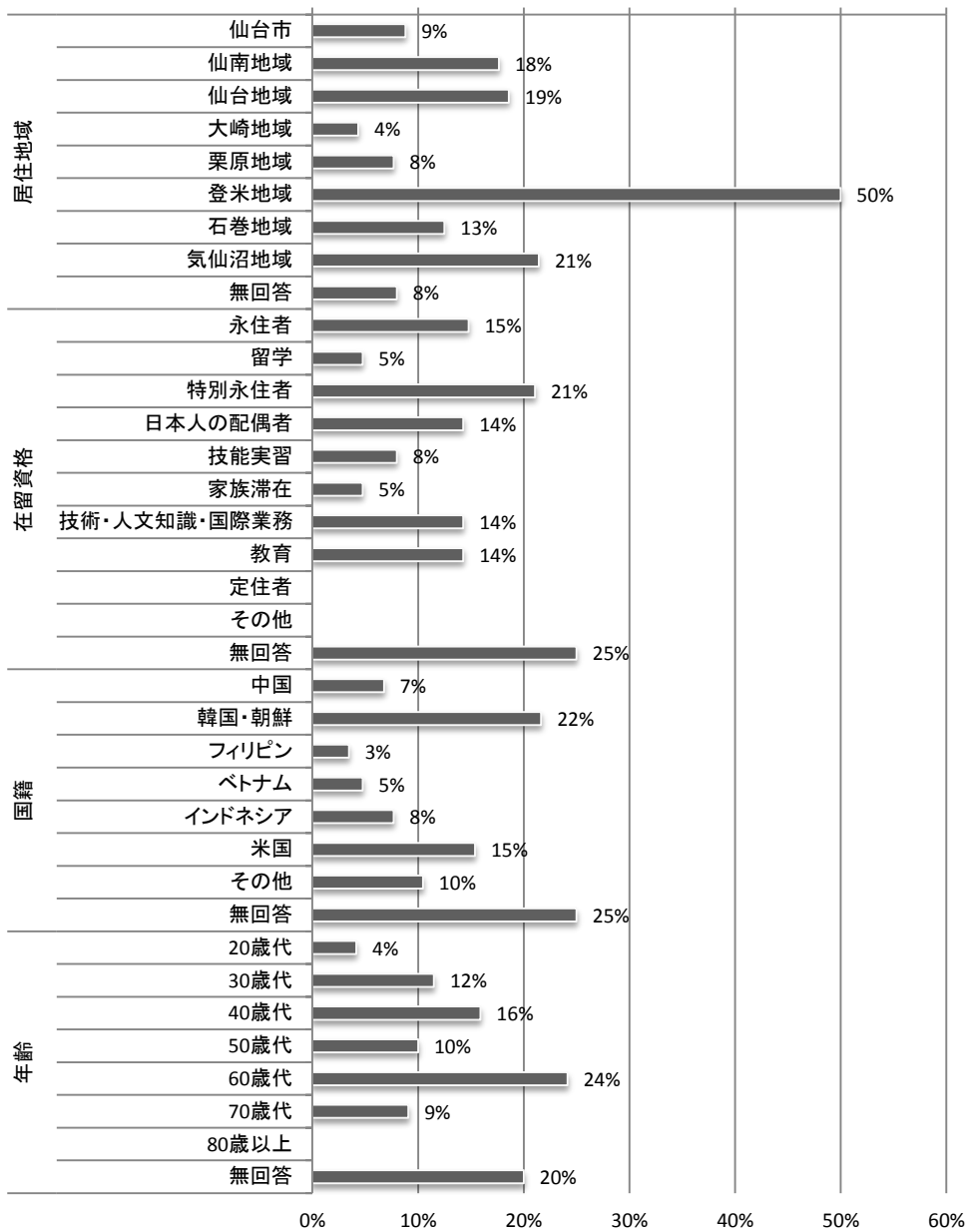


図11-5 医療・福祉が「不満」または「やや不満」の割合(N=396)



⑤ 近所付き合い

近所づきあいの満足度について詳しく見ると、居住地域別では登米地域で不満・やや不満が25%となったのに対し、仙台地域、栗原地域、石巻地域、気仙沼地域では10%未満に留まった。在留資格別では教育で43%が不満・やや不満と回答したのに対し、永住者、技能実習での割合は10%未満となった。国籍別ではインドネシア籍で31%、米国籍で23%が不満・やや不満と回答したが、中国籍、韓国・朝鮮籍、フィリピン籍では10%未満となり、ベトナム籍では不満とする回答はなかった。家族形態別では子どもありの不満・やや不満の割合が10%未満となったが、他の回答でも特に高い割合はでていない。日本語能力（話す・聞く）別では、能力によって満足度に差はなかった。

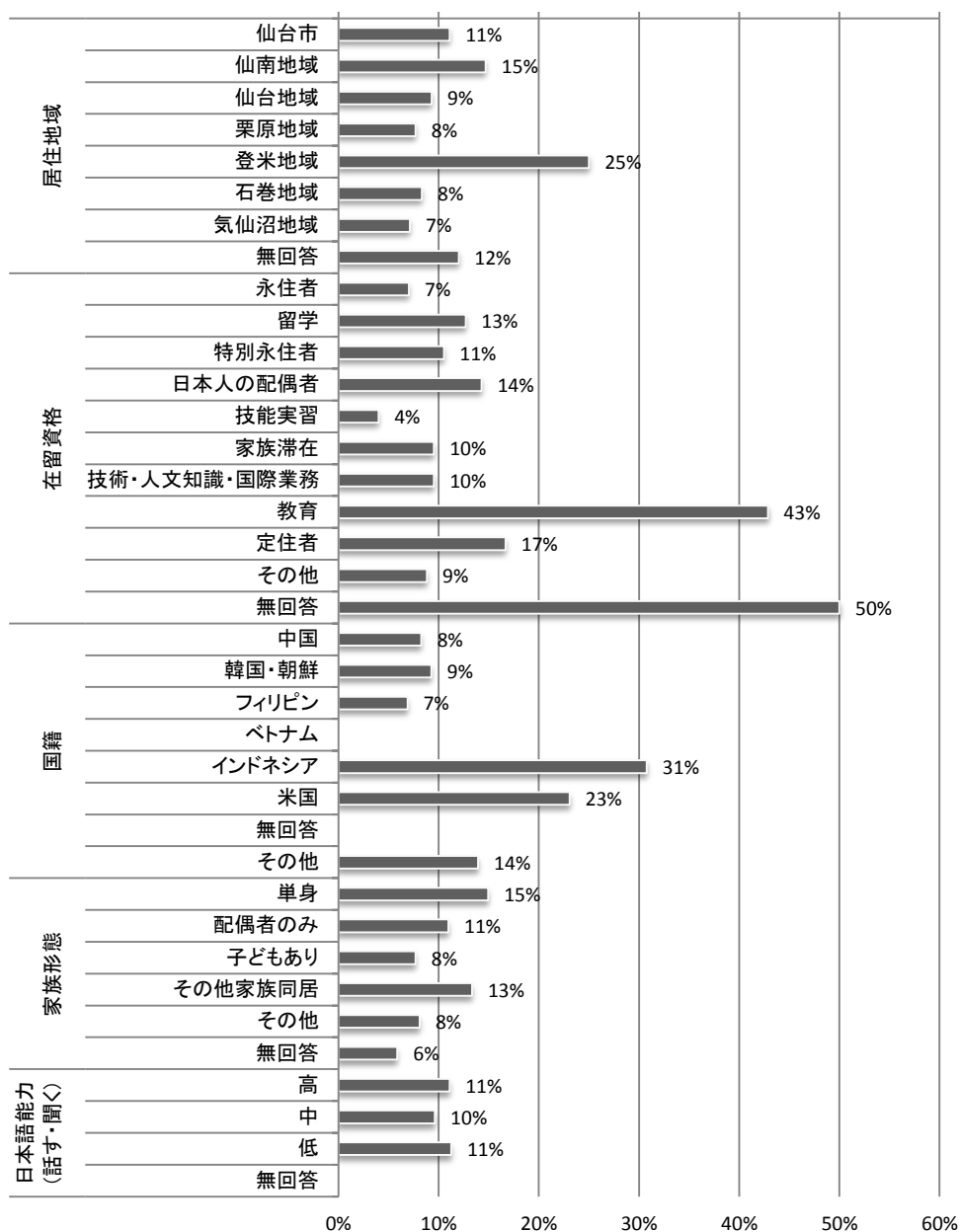


図11-6 近所づきあいが「不満」または「やや不満」の割合(N=396)

⑥ 県や市町村が提供するサービス

県や市町村が提供するサービスに対する満足度について詳細を見ると、居住地域別では登米地域で50%、石巻地域で25%が不満・やや不満としたのに対し、仙台市、大崎地域、栗原地域では10%未満となった。在留資格別では日本人の配偶者、定住者で17%が不満・やや不満としたが、留学、技能実習、家族滞在では10%未満に留まり、教育では不満とする回答はなかった。国籍別ではインドネシア籍で15%が不満・やや不満と回答したのに対し、米国籍では8%に留まり、ベトナム籍では不満とする回答はなかった。宮城県居住年数別では20年未満で19%が不満・やや不満とするなどやや割合が高くなった。

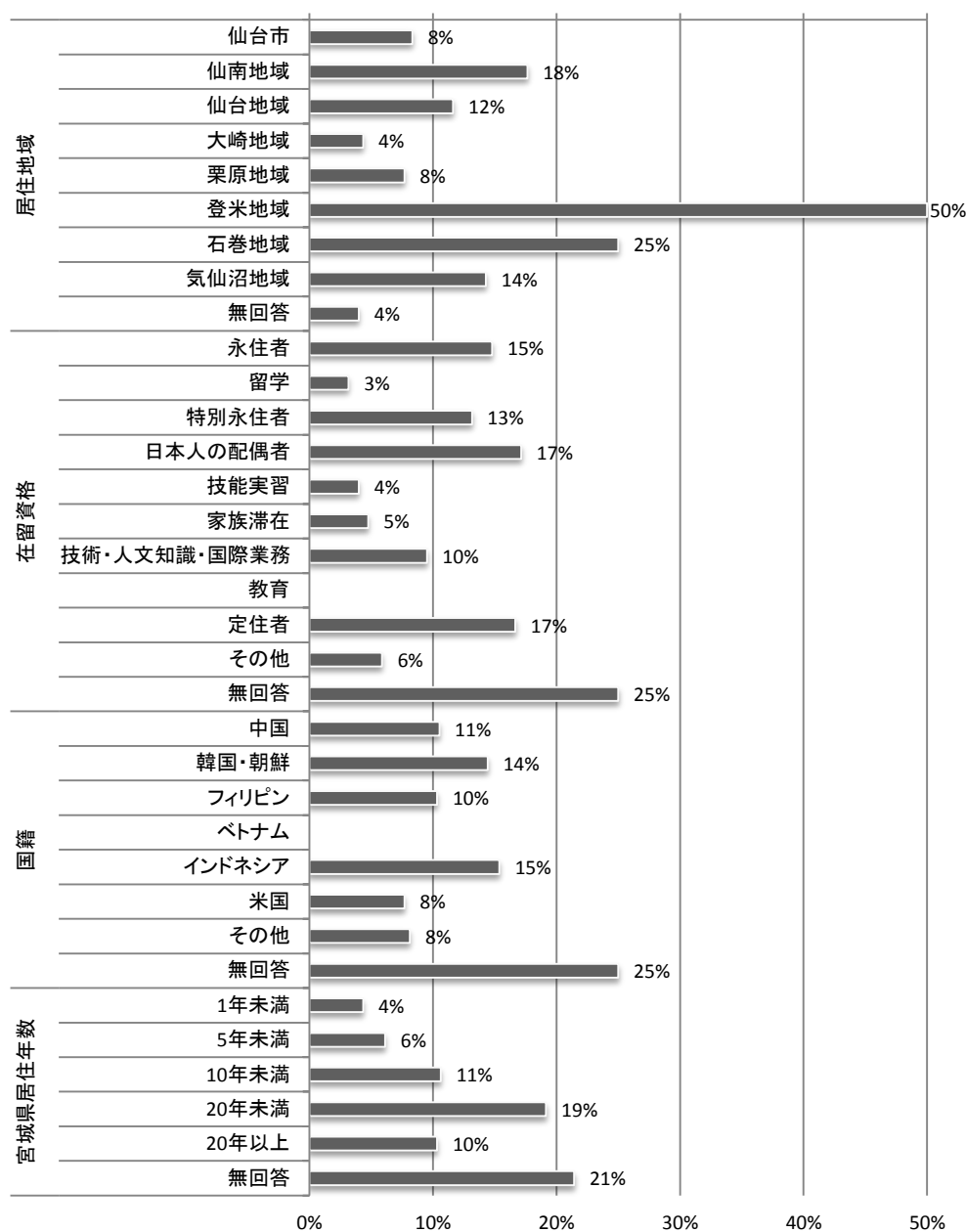


図11-7 県や市町村が提供するサービスが「不満」または「やや不満」とする割合(N=396)

### 3 言語

#### (12) 日本語能力

##### ① 話す能力

日本語を話す能力については、不自由なく話せる人が 38.4%、だいたい話せる人が 36.4% となり、「あまり話せない」または「ほとんど話せない」と回答した人は全体の 23.5% となっている。

問 12 あなたの日本語能力を自分で判断するとすれば、次のどれにあたりますか

表 12-1 話す能力

A 話す	N	%
不自由なく話せる	152	38.4%
だいたい話せる	144	36.4%
あまり話せない	65	16.4%
ほとんど話せない	28	7.1%
無回答	7	1.8%
計	396	100%

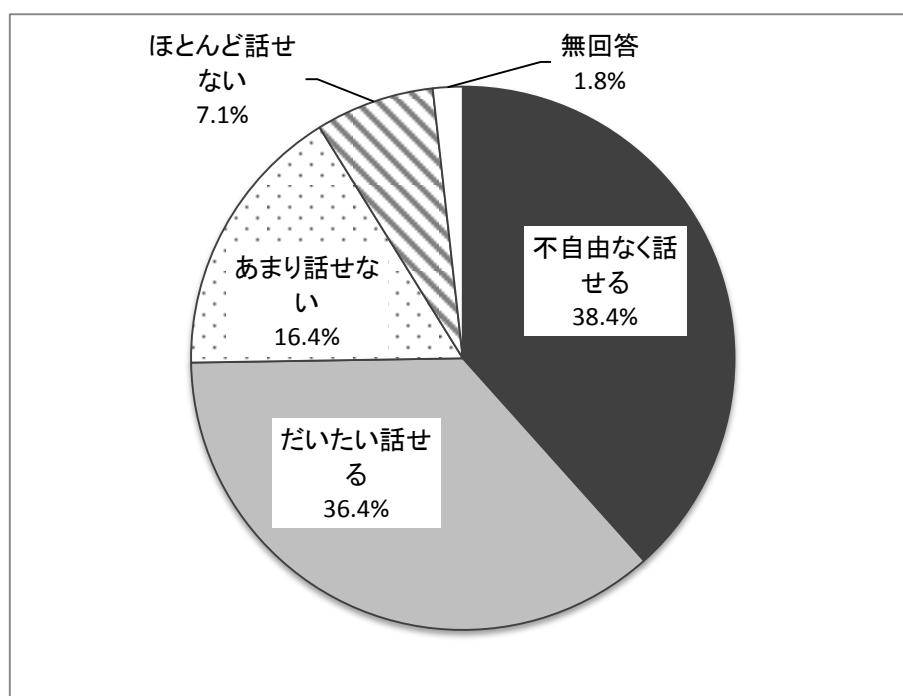


図 12-1 話す能力

日本語を話す能力を居住地別に見ると、仙台地域、登米地域では50%以上が不自由なく話せるとしたのに対し、大崎地域では不自由なく話せるは17%と最も少なく、だいたい話せるが57%となった。不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は栗原地域、気仙沼地域以外では70%以上となっており、仙台地域と石巻地域では80%を超えている。一方、気仙沼地域ではあまり話せないが57%を占めたほか、栗原地域ではあまり話せない、ほとんど話せないが23%となり、他の地域と比較して高い割合となった。

在留資格別に見ると、特別永住者では95%が不自由なく話せると回答するなど特に高い割合を示した。このほか永住者、日本人の配偶者、技術・人文知識・国際業務では不自由なく話せる、だいたい話せるの割合が70%以上となった。対して、家族滞在ではあまり話せない、ほとんど話せないの割合が67%を占めたほか、技能実習、定住者でも50%近くと割合が高くなっている。

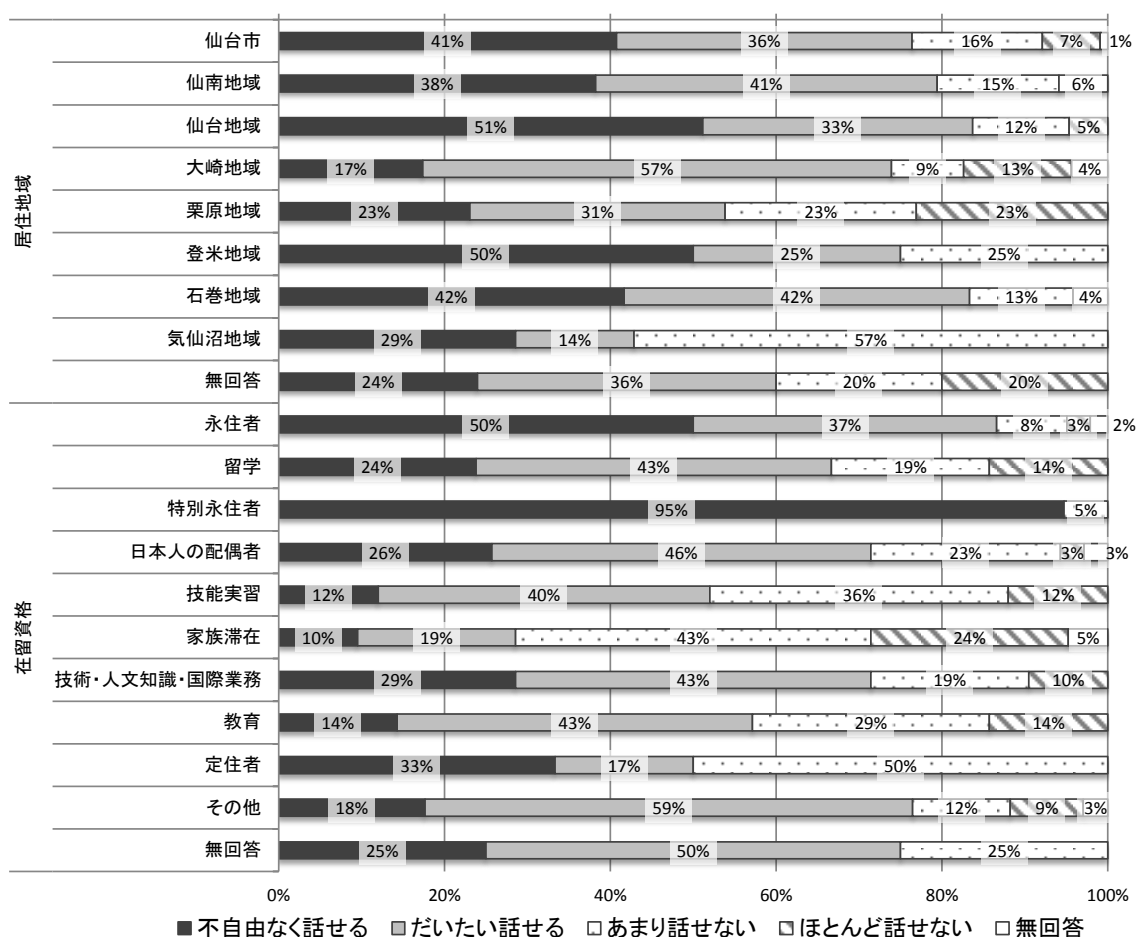


図12-1-2 居住地・在留資格別日本語能力(話す)の分布(N=396)

国籍別に見ると、韓国・朝鮮籍では65%が不自由なく話せると回答しており、だいたい話せると合わせると90%を超える。中国籍、フィリピン籍、米国籍でも不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は70%近くを占めている。不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答が最も低くなったインドネシア籍でも60%を超える割合となっている。

日本人との交流別に見ると、なんでも話せる人がいるの回答では不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は82%を占めている。立ち話をする人がいる、あいさつをする人がいるの回答でも、不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は70%を超えている。これに対して、まったくいないの回答では、不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は36%と他と比べて低い割合となっている。

日本の居住年数別では、1年未満の回答では、不自由なく話せる、だいたい話せるを合わせた回答は37%であるが、居住年数が長くなるにつれ日本語を話す能力が高い割合が伸びてゆき、10年未満になると70%近く、20年未満では90%近くが不自由なく話せる、だいたい話せると回答している。

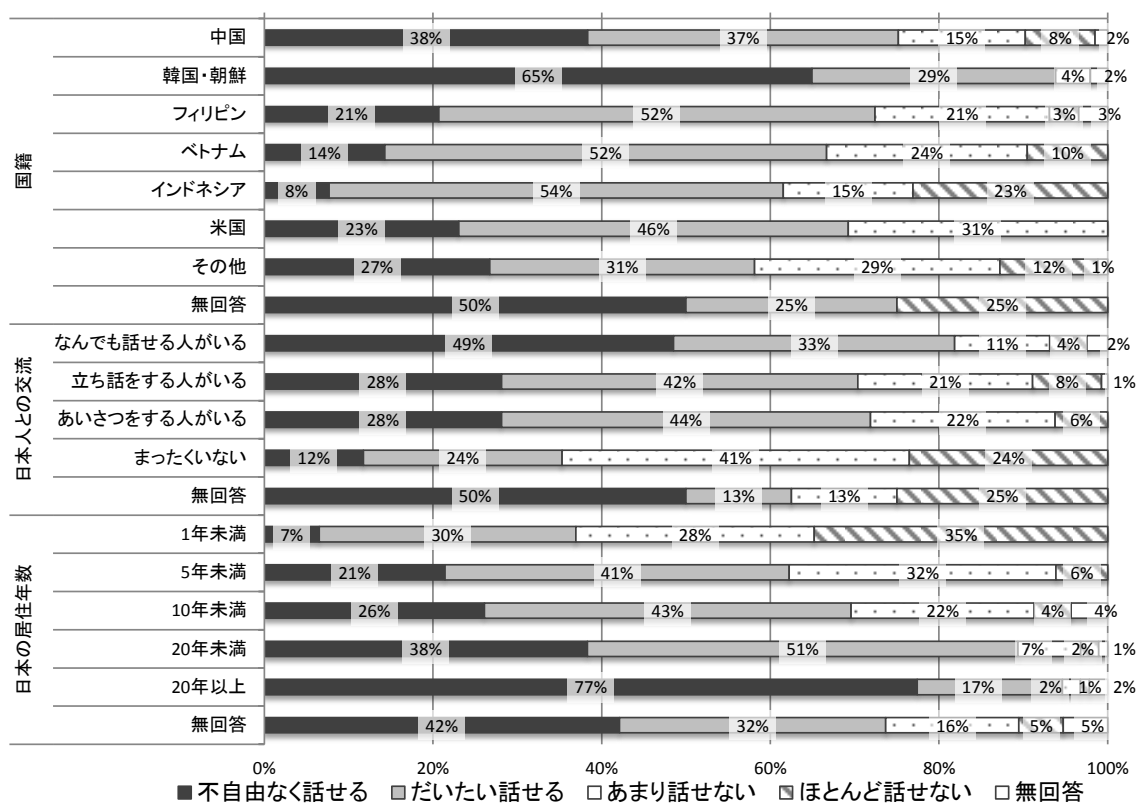


図12-1-3 国籍・日本人との交流・日本居住年数別日本語能力(話す)の分布(N=396)

## ② 聞く能力

日本語を聞く能力の分布を見ると、「だいたい聞き取れる」と回答した人が40%を超えており、「不自由なく聞き取れる」と回答した人と合わせると、全体の約80%となっている。一方で、「あまり聞き取れない」または「ほとんど聞き取れない」と回答した人の割合は全体の20%未満にとどまる。

表 12-2 聞く能力

B 聞く	N	%
不自由なく聞き取れる	151	38.1%
だいたい聞き取れる	163	41.2%
あまり聞き取れない	52	13.1%
ほとんど聞き取れない	22	5.6%
無回答	8	2.0%
計	396	100%

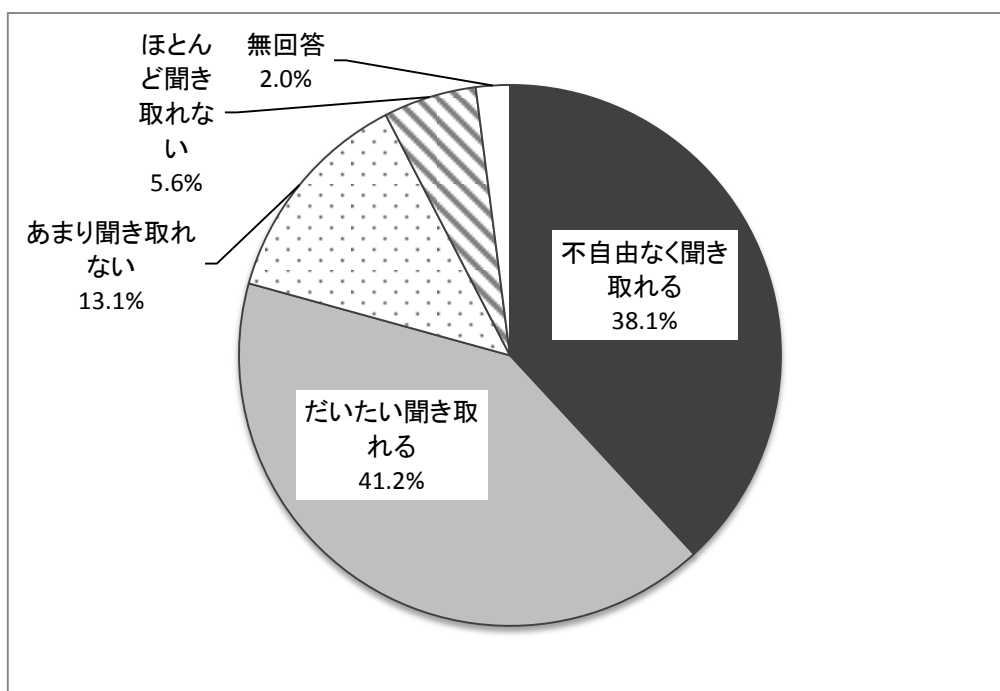


図 12-2 聞く能力

居住地域別に日本語を聞く能力の分布を見ると、仙台市、仙南地域、仙台地域、登米地域、石巻地域では80%程が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。一方の栗原地域と気仙沼地域では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるを合わせた回答は60%台となっている。

在留資格別に見ると、永住者、特別永住者、日本人の配偶者、技術・人文知識・国際業務、定住者では80%以上が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。一方、家族滞在と教育では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるを合わせた割合は50%以下の割合となっている。

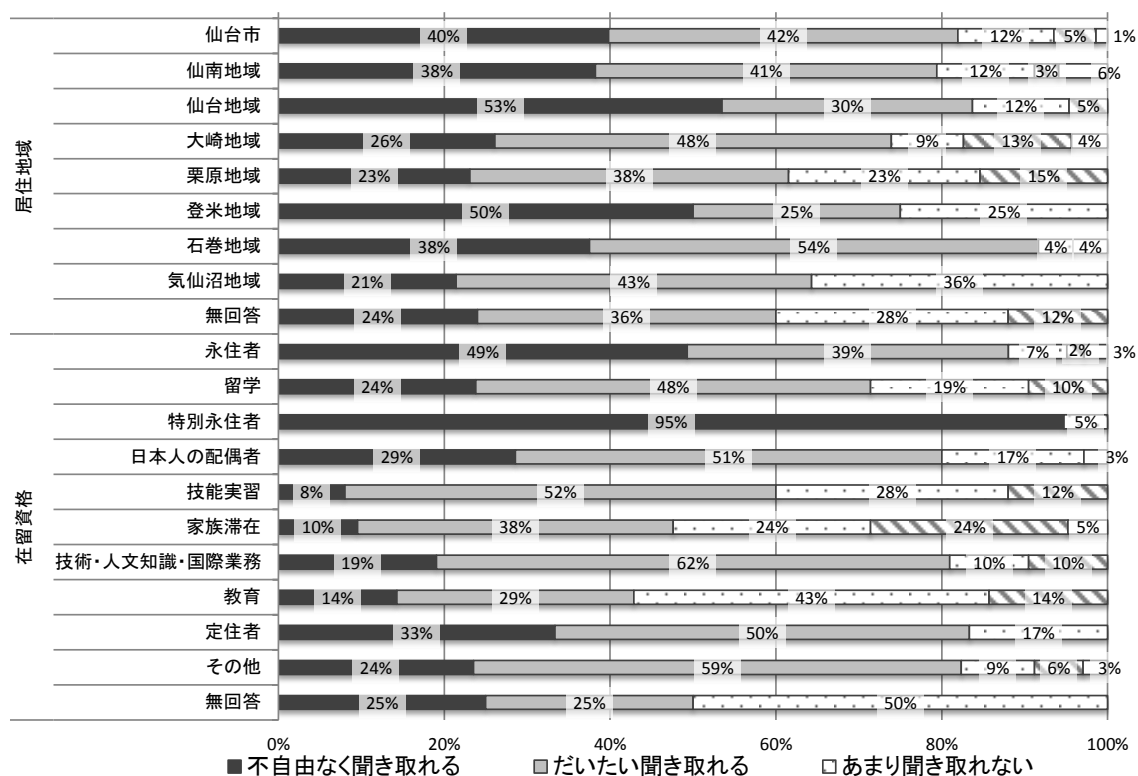


図12-2-2 居住地域・在留資格別日本語能力(聞く)の分布(N=396)

国籍別に見ると、韓国・朝鮮籍では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答した割合が97%に上っている。また、中国籍、フィリピン籍でも80%以上が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。これに対してインドネシア籍では不自由なく聞き取れるとした回答はなく、だいたい聞き取れるの割合も62%となっている。

日本人との交流別に見ると、なんでも話せる人がいると回答した人では、85%が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるとしており、立ち話をする人がいる、あいさつをする人がいるでも70%以上が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。だが、まったくいないの回答では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れるが36%と他の区分と比較して低い割合となっている。

日本の居住年数別に見ると、1年未満では不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答した割合は44%であるが、居住年数が長くなるにつれ日本語の聞き取り能力は高くなってゆき、10年未満で76%、20年未満で90%が不自由なく聞き取れる、だいたい聞き取れると回答している。

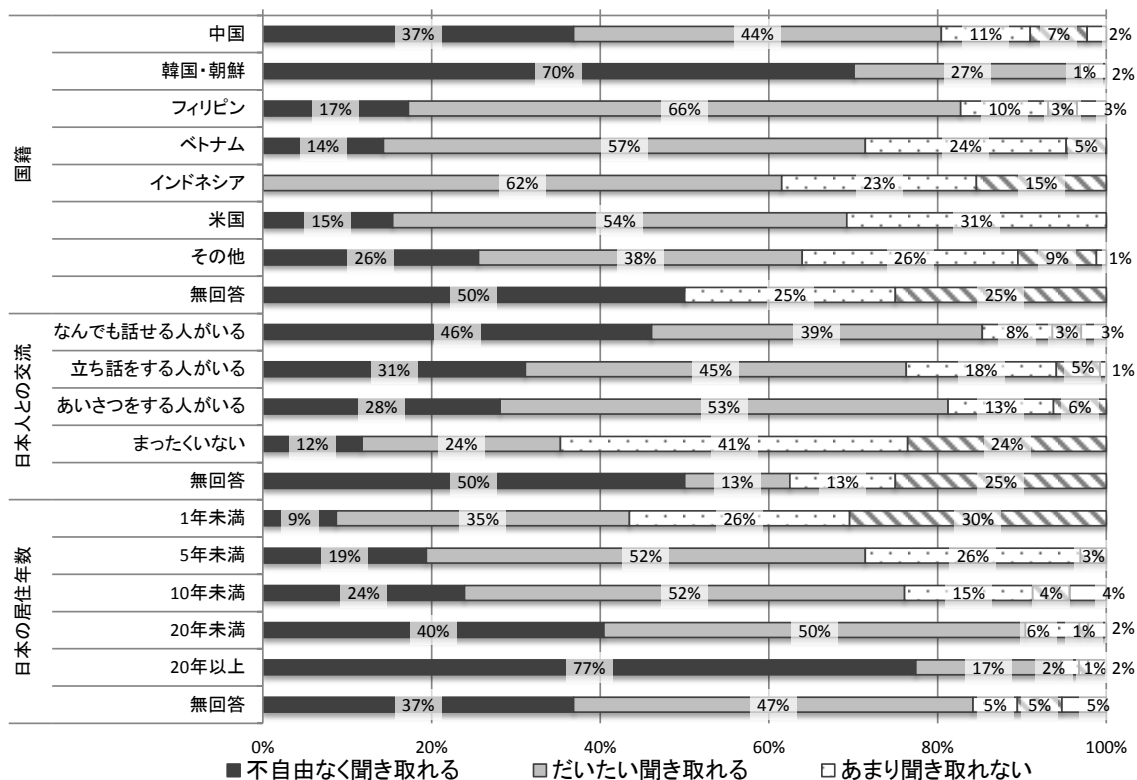


図12-2-3 国籍・日本人との交流・日本居住年数別日本語能力(聞く)の分布 (N=396)



### ③ 読む能力

日本語を読む能力の分布を見ると、ひらがなやカタカナを読める割合は高く、ひらがなは63.1%が「不自由なく読める」、21.7%が「だいたい読める」、カタカナについては56.1%が「不自由なく読める」、27.3%が「だいたい読める」と回答している。これに比べて漢字を読むことができる割合はやや低く、「不自由なく読める」割合は31.3%、「あまり読めない」と「ほとんど読めない」を合わせると37.7%となっている。

表 12-3 読む能力

C 読む	漢字		ひらがな		カタカナ	
	N	%	N	%	N	%
不自由なく読める	124	31.3%	250	63.1%	222	56.1%
だいたい読める	116	29.3%	86	21.7%	108	27.3%
あまり読めない	89	22.5%	23	5.8%	26	6.6%
ほとんど読めない	60	15.2%	20	5.1%	24	6.1%
無回答	7	1.8%	17	4.3%	16	4.0%
計	396	100%	396	100%	396	100%

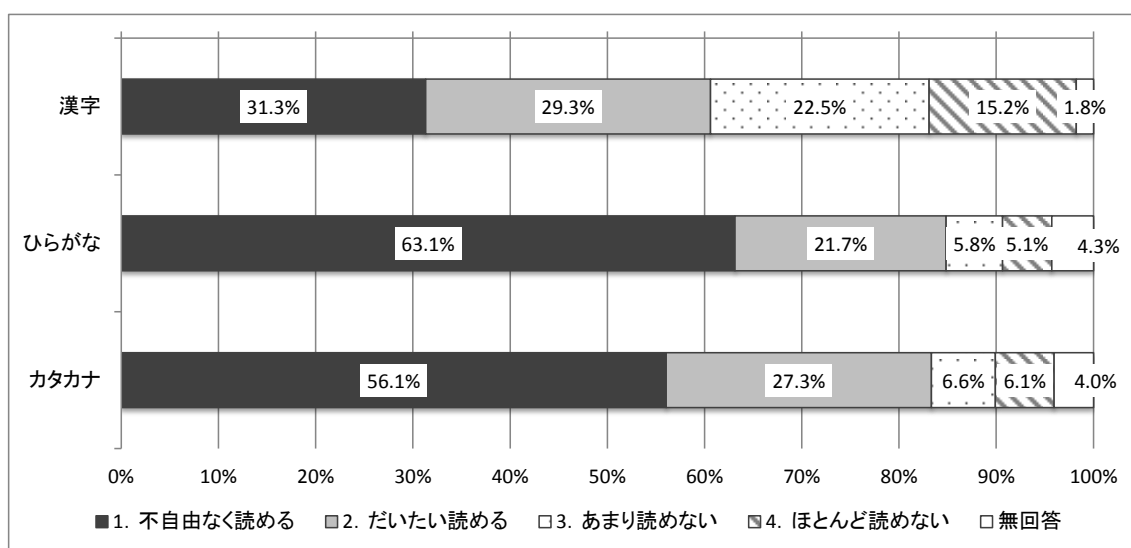


図 12-3 読む能力

国籍別に漢字を読む能力の分布を見ると、中国籍、韓国・朝鮮籍では80%以上が不自由なく読める、だいたい読めると回答しているのに対して、フィリピン籍、ベトナム籍、インドネシア籍、米国籍ではおよそ70%以上があまり読めない、ほとんど読めないと回答している。

日本の居住年数別に見ると、1年未満では不自由なく読める、だいたい読めると回答した割合は28%に留まるが、居住年数が長くなるにつれ漢字を読む能力は高くなってゆき、20年以上では82%が不自由なく読める、だいたい読めると回答している。

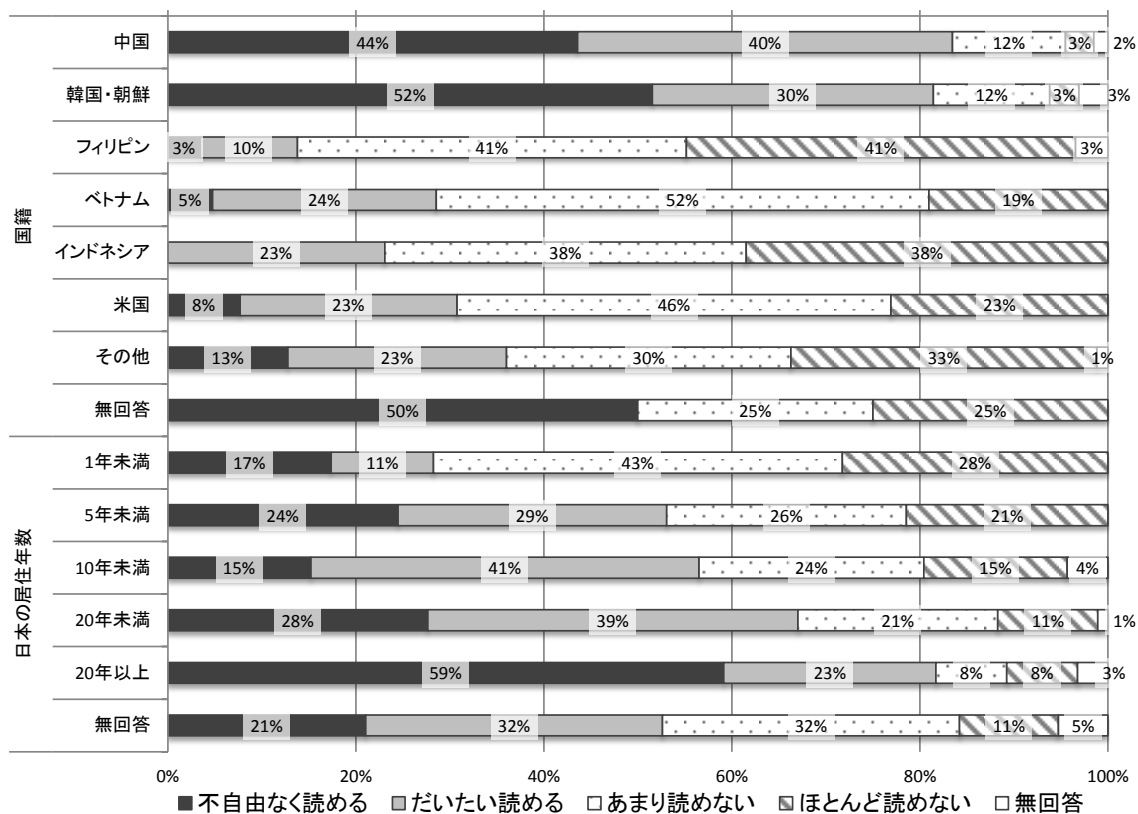


図12-3-2 国籍・日本居住年数別日本語能力(読む・漢字)の分布(N=396)

国籍別にひらがなを読む能力を見ると、中国籍、韓国・朝鮮籍、ベトナム籍では80%以上が不自由なく読める、だいたい読めると回答しており、インドネシア籍と米国籍では不自由なく読める、だいたい読めると回答した割合は100%となっている。一方のフィリピン籍では不自由なく読める、だいたい読めると回答したのは65%と他の国籍と比較して低くなっている。

日本居住年数別に見ると、1年未満で80%が不自由なく読める、だいたい読めると回答しており、20年以上でも不自由なく読める、だいたい読めると回答した割合は87%となっている。このことから早い段階でひらがなを読む能力を習得できている傾向が窺える。

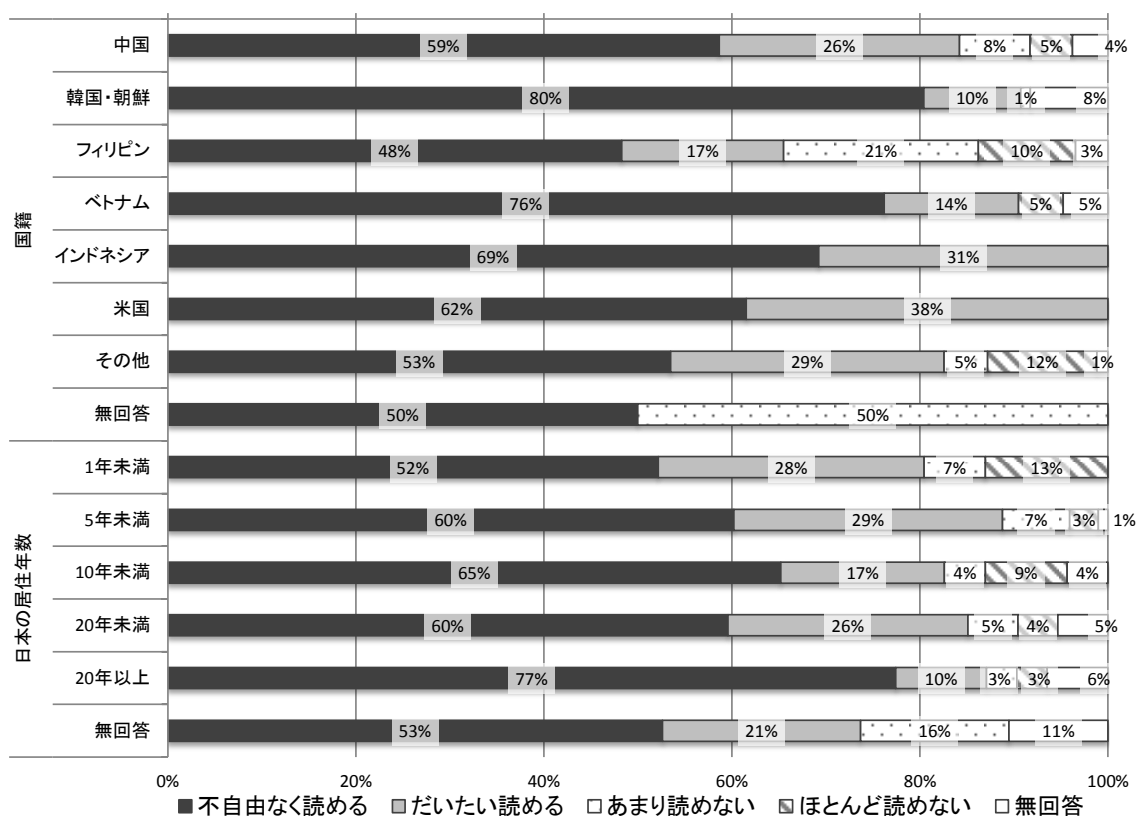


図12-3-3 国籍・日本居住年数別日本語能力(読む・ひらがな)の分布(N=396)

④ 書く能力

日本語を書く能力については、読む能力と同様、ひらがなとカタカナを書ける割合は高く、80%程度が「不自由なく書ける」もしくは「だいたい書ける」と回答している。一方、漢字については、「不自由なく書ける」または「だいたい書ける」割合は53.8%にとどまり、「あまり書けない」または「ほとんど書けない」と回答している割合が40%を超えている。

表 12-4 書く能力

D 書く	漢字		ひらがな		カタカナ	
	N	%	N	%	N	%
不自由なく書ける	111	28.0%	227	57.3%	206	52.0%
だいたい書ける	102	25.8%	96	24.2%	100	25.3%
あまり書けない	99	25.0%	32	8.1%	41	10.4%
ほとんど書けない	76	19.2%	27	6.8%	36	9.1%
無回答	8	2.0%	14	3.5%	13	3.3%
計	396	100%	396	100%	396	100%

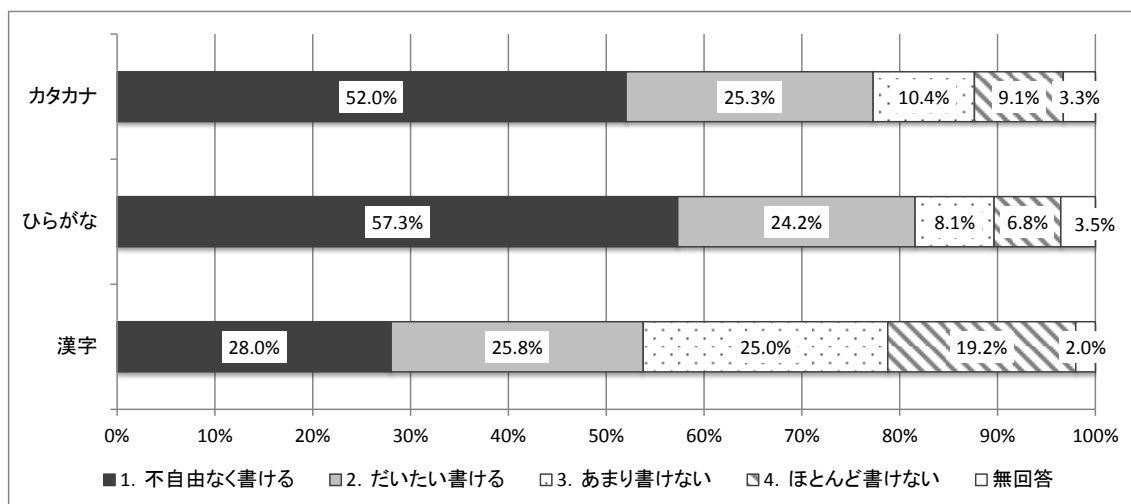


図 12-4 書く能力

### (13) 日本語の必要性

日本語の必要性についての意見の分布を見ると、「日常生活のために必要」と考える人が69.7%と最も多く、次いで「現在の仕事・勉強をしていくために必要」が52.3%、「日本人とつきあうために必要」が46.7%となっている。一方、日本語が必要ないと考える人は少数であり、「必要ない」、「いずれ帰国するのであれば必要ない」、「母国語で暮らせるのであれば必要ない」と答えた人はいずれも3%に満たない。

問 13 日本語の必要性についてどのように考えますか (複数回答)

表 13 日本語の必要性

	N	%
日常生活のために必要	276	69.7%
現在の仕事・勉強をしていくために必要	207	52.3%
日本人とつきあうために必要	185	46.7%
日本に永住するために必要	147	37.1%
希望する仕事を見つけるために必要	111	28.0%
必要ない	9	2.3%
いずれ帰国するのであれば必要ない	7	1.8%
母国語で暮らせるのであれば必要ない	4	1.0%
その他	17	4.3%
無回答	6	1.5%
計	396	100%

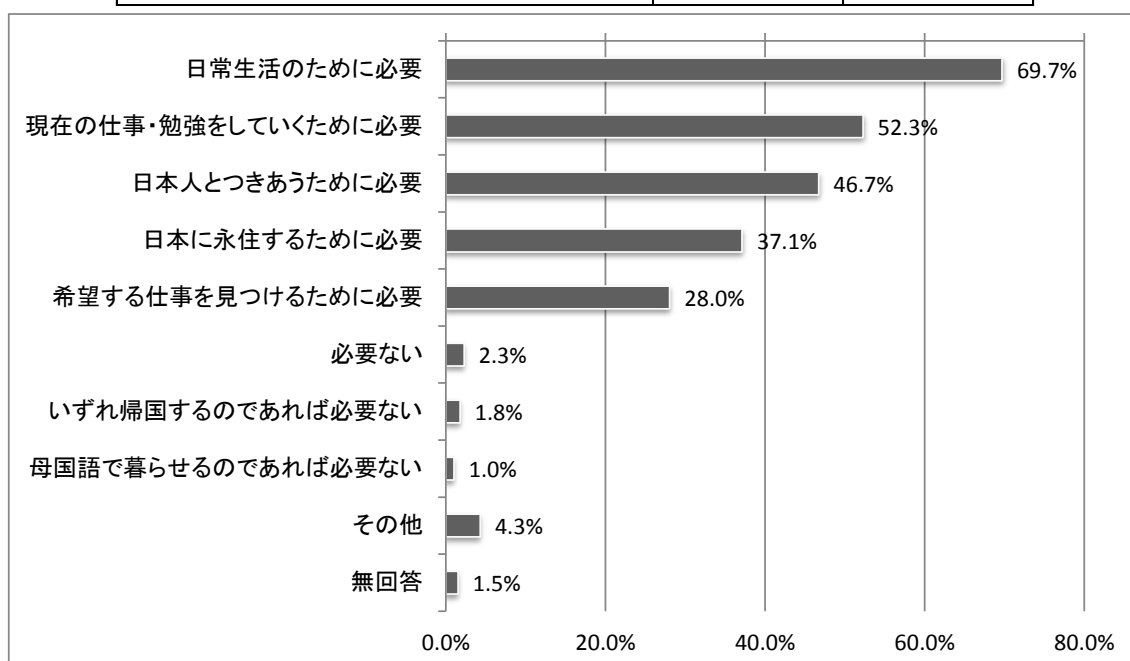


図 13 日本語の必要性

#### (14) 日本語の学習状況

日本語の学習状況の分布を見ると、「現在、学習している」が35.1%と最も多く、次いで「日本語に不自由はないので、学習の必要はない」が30.8%、「現在は学習していないが、できれば学習したい」が28.0%、「現在は学習していないし、学習するつもりはない」が3.8%となっている。

問14 あなたの日本語の学習状況は、次のどれにあてはまりますか。

表14 日本語の学習状況

	N	%
現在、学習している	139	35.1%
日本語に不自由はないので、学習の必要はない	122	30.8%
現在は学習していないが、できれば学習したい	111	28.0%
現在は学習していないし、学習するつもりもない	15	3.8%
無回答	9	2.3%
計	396	100%

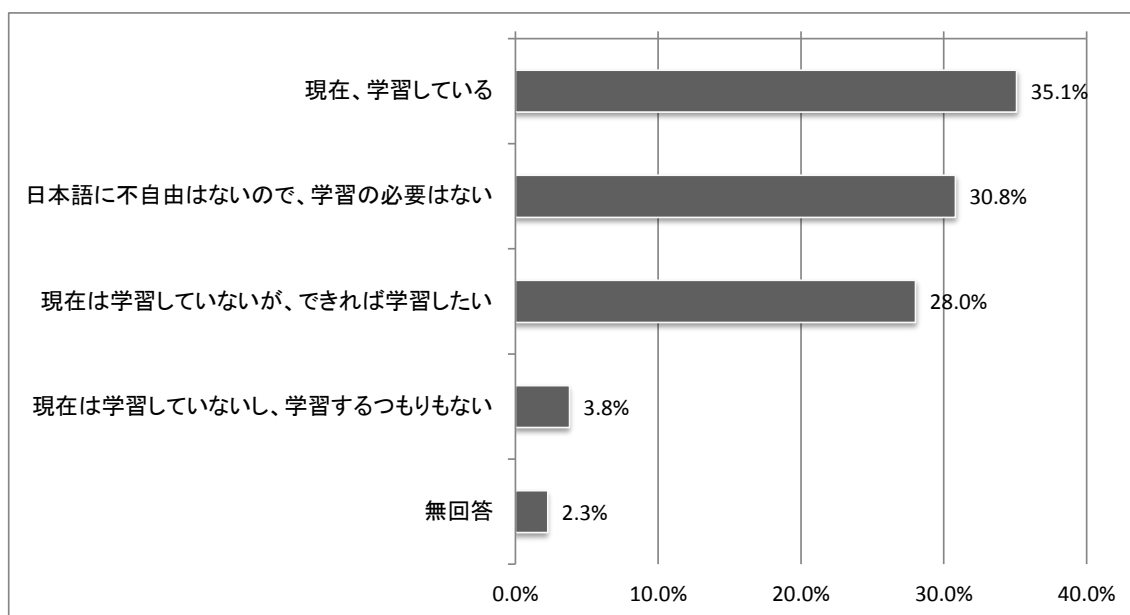


図14 日本語の学習状況

在留資格別の日本語の学習状況を見ると、特別永住者では89%が日本語に不自由はないと回答している。すでに学習している人の割合は技能実習で84%と最も高くなり、留学、技術・人文知識・国際業務、教育で60%以上となる。定住者では83%ができれば学習したいとしており、永住者、日本人の配偶者、家族滞在、教育でもおよそ30%以上を占めている。一方、日本人の配偶者では日本語を学習するつもりはないの割合が9%と最も高い。

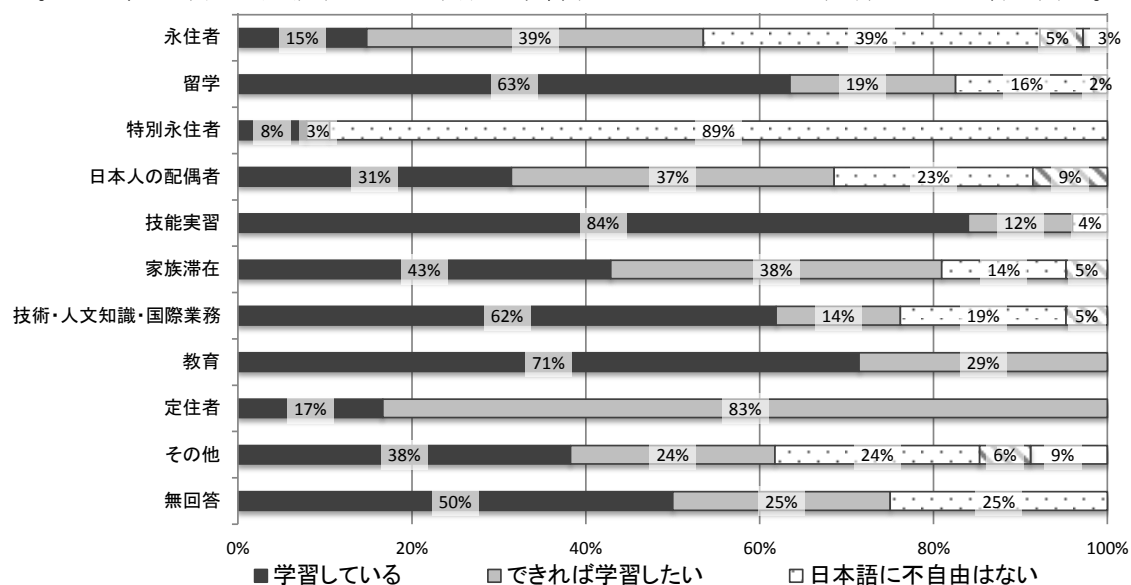


図14-2 在留資格別日本語の学習状況の分布(N=396)

日本の居住年数別に見ると、1年未満では76%が学習していると回答している。居住年数が長くなるにつれ割合は低下し、10年未満では30%、20年未満では20%となっている。一方、20年未満ではできれば学習したいの割合が最も高く41%となっている。20年以上では学習しているが9%、できれば学習したいも13%と最も低くなっているが、日本語に不自由はないも72%を占めており、居住年数が長くなるにつれ日本語に不自由なくなる割合が高くなっている。

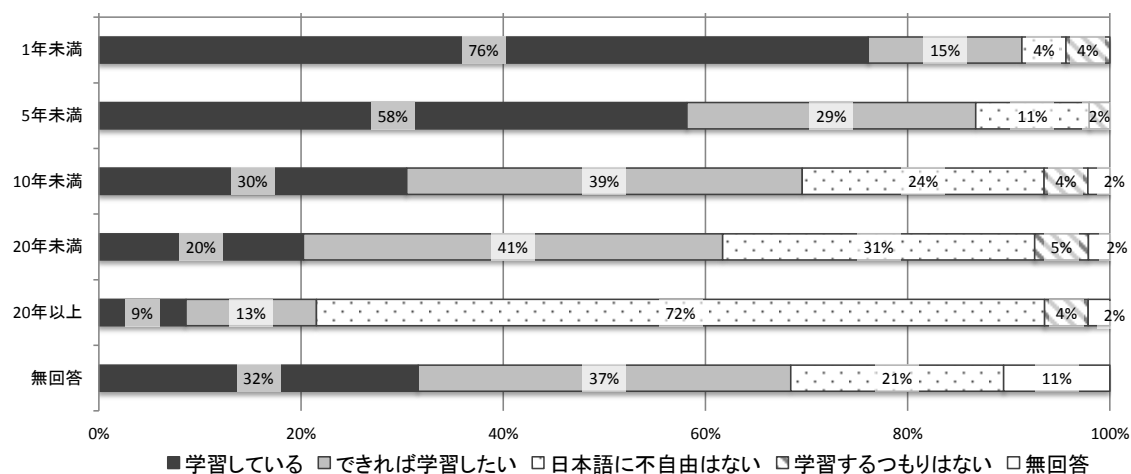


図14-3 日本居住年数別日本語の学習状況の分布(N=396)

家族形態別に日本語の学習状況の分布を見ると、単身者では学習しているが47%と最も高いが、子どもあり、その他家族同居では20%となっている。一方、日本語に不自由はないは子どもあり、その他家族同居では40%を超えているが、単身者では23%に留まっている。できれば学習したいの割合は各区分によって大きな差は見られない。

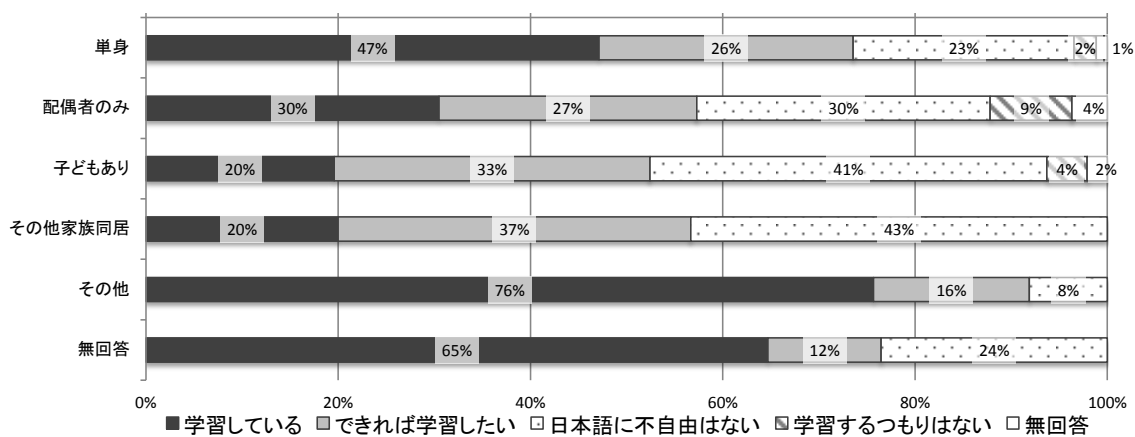


図14-4 家族形態別日本語の学習状況の分布 (N=396)



### (15) 日本語の学習方法

日本語の学習方法を見ると、「教材やインターネットまたはオンラインなどを通じて自分で勉強している」の割合が最も高く、現在日本語を学習している人のうちの61.2%となっている。次いで、「日本人の知人・友人に教えてもらっている」または「通っている大学や学校で学んでいる」が各22.3%、「ボランティアの日本語教室に通っている」が14.4%となっている。

問15 あなたはどのように日本語を学んでいますか（複数回答）

（問14で「現在、学習している」を選択した人）

表15 日本語の学習方法

	N	%
教材やインターネットまたはオンラインなどで自分で勉強している	85	61.2%
日本人の知人・友人に教えてもらっている	31	22.3%
通っている大学や学校で学んでいる	31	22.3%
家族に教えてもらっている	16	11.5%
ボランティアの日本語教室に通っている	20	14.4%
語学学校（日本語学校）に通っている	11	7.9%
自宅に講師を招き、個人指導を受けている	3	2.2%
その他	16	11.5%
無回答	1	0.7%
計	139	100%

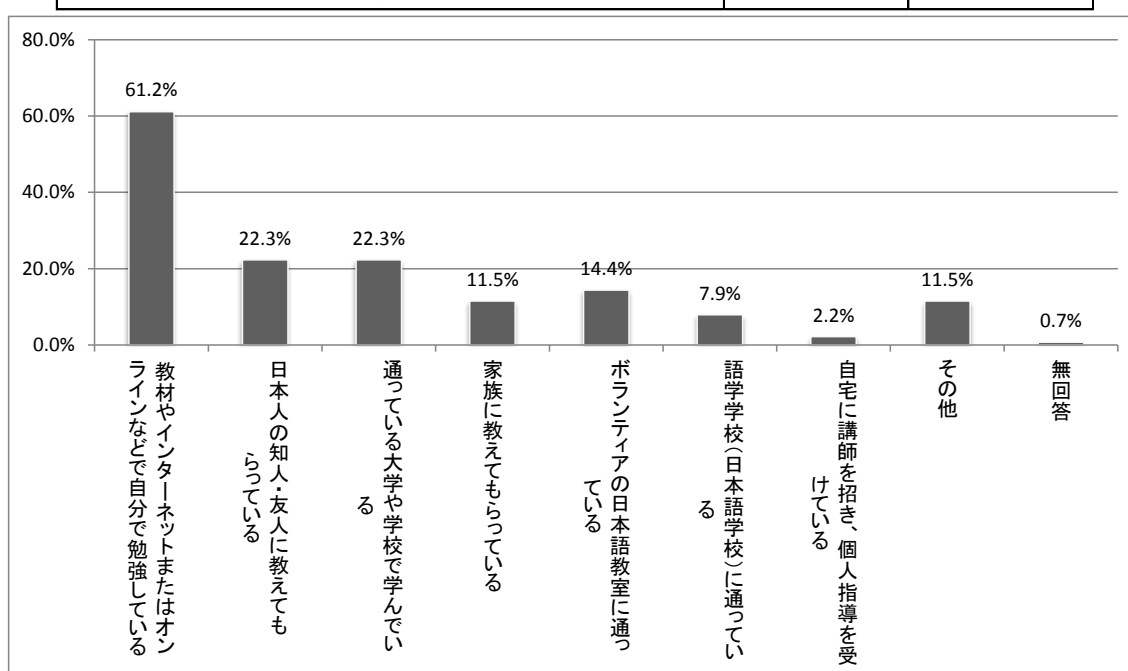


図15 日本語の学習方法

### (16) 日本語を学習しない理由

日本語を学習しない理由の分布を見ると、「忙しくて勉強する時間がないから」と答えた人が最も多く、現在学習していない人のうち 55.6% を占めている。次いで、「近くに学べる場がないから」を選択する人が 33.3%、「日本語教室や日本語学校の情報がないから」を選択する人が 23.8%、「勉強するお金がないから」を選択する人が 21.4% となっている。

問 16 あなたが日本語を学ばない、学んでいない理由は何ですか（複数回答）

（問 14 で「現在は学習していないが、できれば学習したい」または「現在は学習していないし、学習するつもりもない」と選択した人）

表 16 日本語を学習しない理由

	N	%
忙しくて勉強する時間がないから	70	55.6%
近くに学べる場がないから	42	33.3%
日本語教室や日本語学校の情報がないから	30	23.8%
勉強するお金がないから	27	21.4%
家族や友人などが通訳してくれるから	25	19.8%
母国の言葉だけで生活できるから	3	2.4%
その他	16	12.7%
無回答	4	3.2%
計	126	100%

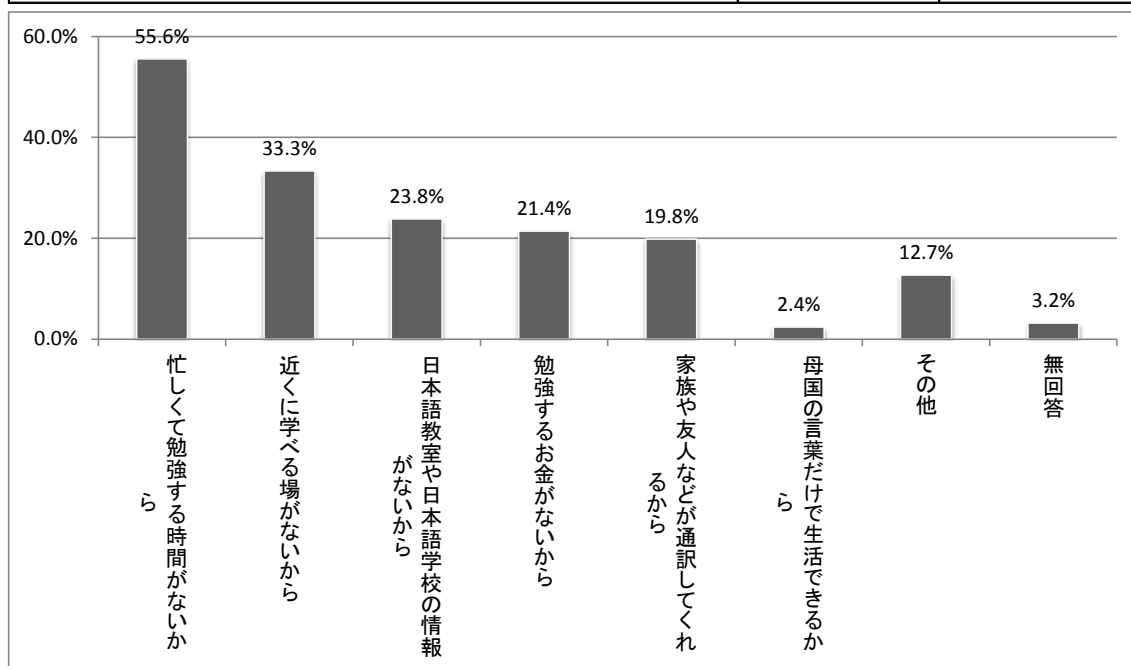


図 16 日本語を学習しない理由

## 4 情報

### (17) 生活に必要な情報の入手先

生活に必要な情報の入手手段として、最も多くの人々が携帯電話を使用したインターネットと答え、47.2%を占める。次いで、テレビ・ラジオを選んだ人が45.7%、日本人の友人・知人を選んだ人が42.7%、パソコンを使用したインターネットを選んだ人が41.4%となっている。メディアや個人的なネットワークを利用して情報を入手する人が多い一方、母国の大使館や領事館、外国籍住民向け相談窓口などの公的機関や団体などを通して情報を入手している人の割合は低いと言える。

問 17 あなたは、生活に必要な情報をどこから得ていますか（複数回答）

表 17 生活に必要な情報の入手先

	N	%
携帯電話を使用したインターネット	187	47.2%
テレビ・ラジオ	181	45.7%
日本人の友人・知人	169	42.7%
パソコンを使用したインターネット	164	41.4%
職場・学校	138	34.8%
家族	131	33.1%
母国出身の友人・知人	103	26.0%
新聞・雑誌	86	21.7%
近所の日本人、町内会の回覧	72	18.2%
外国籍住民向け相談窓口(みやぎ外国人相談センターなど)	22	5.6%
母国の大使館・領事館	14	3.5%
ボランティア団体	9	2.3%
入手する方法がない	9	2.3%
その他	11	2.8%
無回答	20	5.1%
計	396	100%

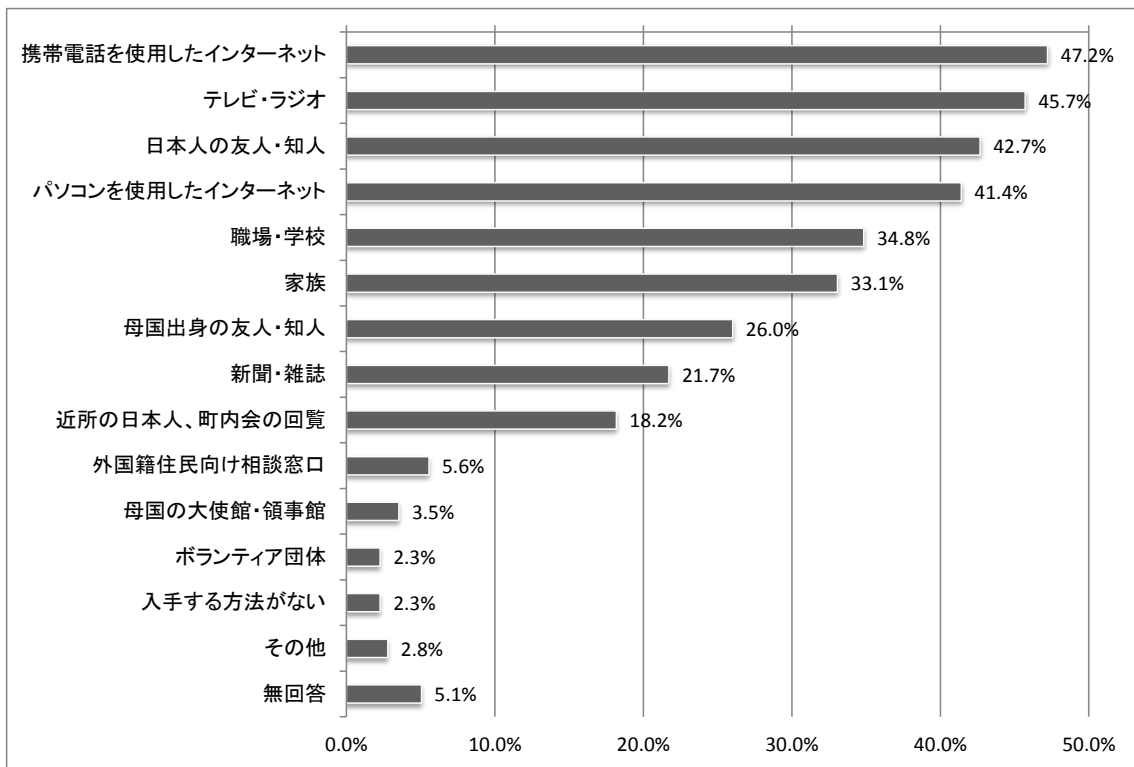


図 17 生活に必要な情報の入手先

在留資格別の生活情報の入手手段について見ると、まずメディアを用いた情報の入手については、特別永住者ではテレビ・ラジオが92%、新聞・雑誌が69%と他の在留資格と比較して割合が高くなっている。テレビ・ラジオについては、永住者、日本人の配偶者、定住者で50%を超えている。新聞・雑誌については10%未満から回答なしの在留資格も多くなった。パソコンによるネットは留学、特別永住者、家族滞在、技術・人文知識・国際業務、教育で50%を超える割合となった。携帯によるネットは留学、特別永住者、華族滞在、技術・人文知識・国際業務、定住者で50%を超えたほか、全ての在留資格で40%以上の割合を占めている。

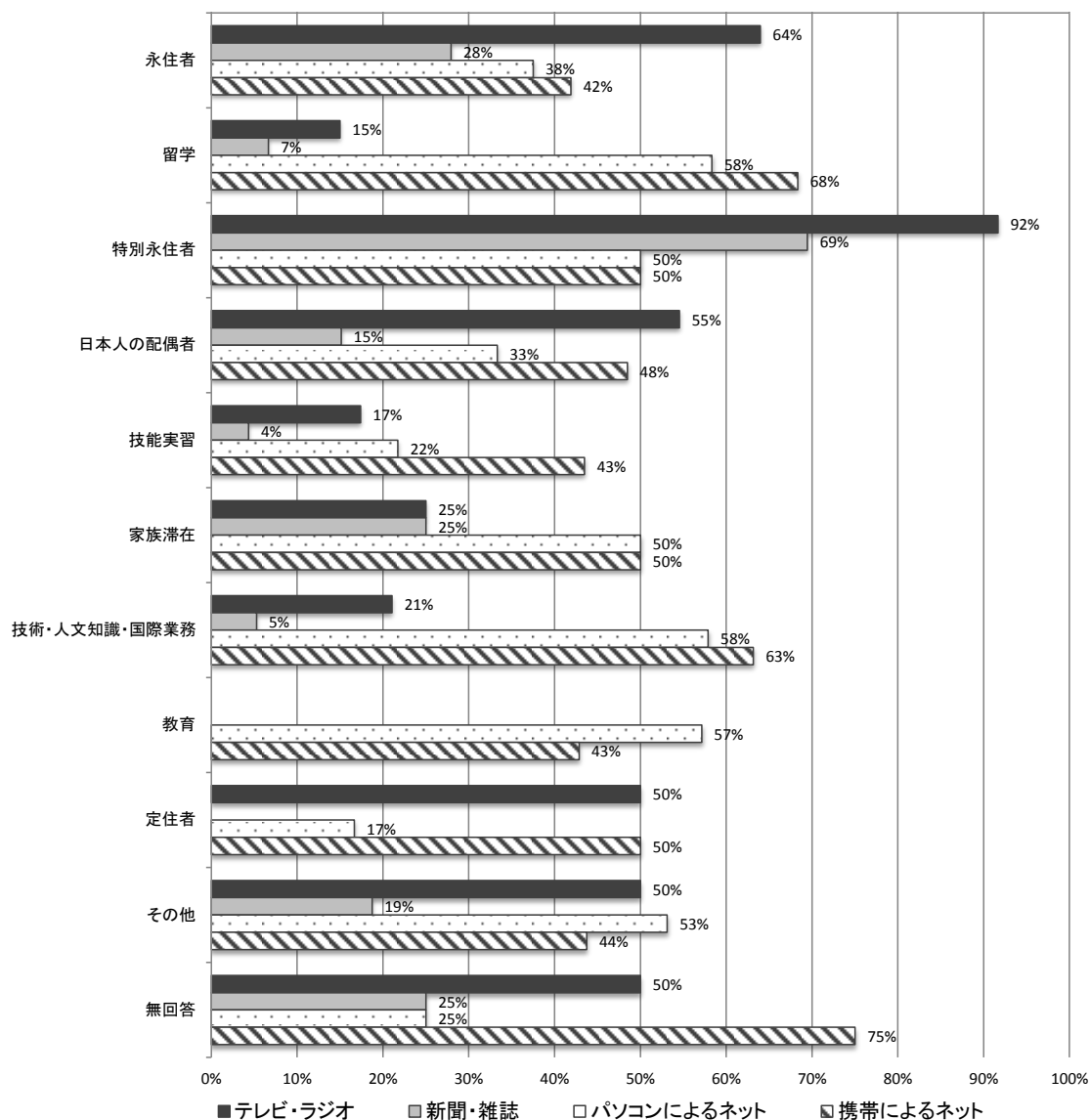


図17-2a 在留資格別生活情報入手手段(メディア)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

次に、友人や家族などのネットワークを用いた情報入手について在留資格による違いを見ると、職場・学校では教育が86%となり、留学、技能実習、定住者で50%以上の割合となった。家族では永住者が58%、日本人の配偶者で52%以上となり、技術・人文知識・国際業務、教育では回答がなかった。日本人の友人・知人では特別永住者が58%、定住者で50%となった。母国出身の友人・知人では50%以上の割合となった在留資格はなく、最も高いもので留学の43%となった。近所の日本人・回覧でも50%以上の割合となった在留資格はなく、最も高いもので特別永住者の39%となっており、技術・人文知識・国際業務、教育、定住者では回答はなかった。

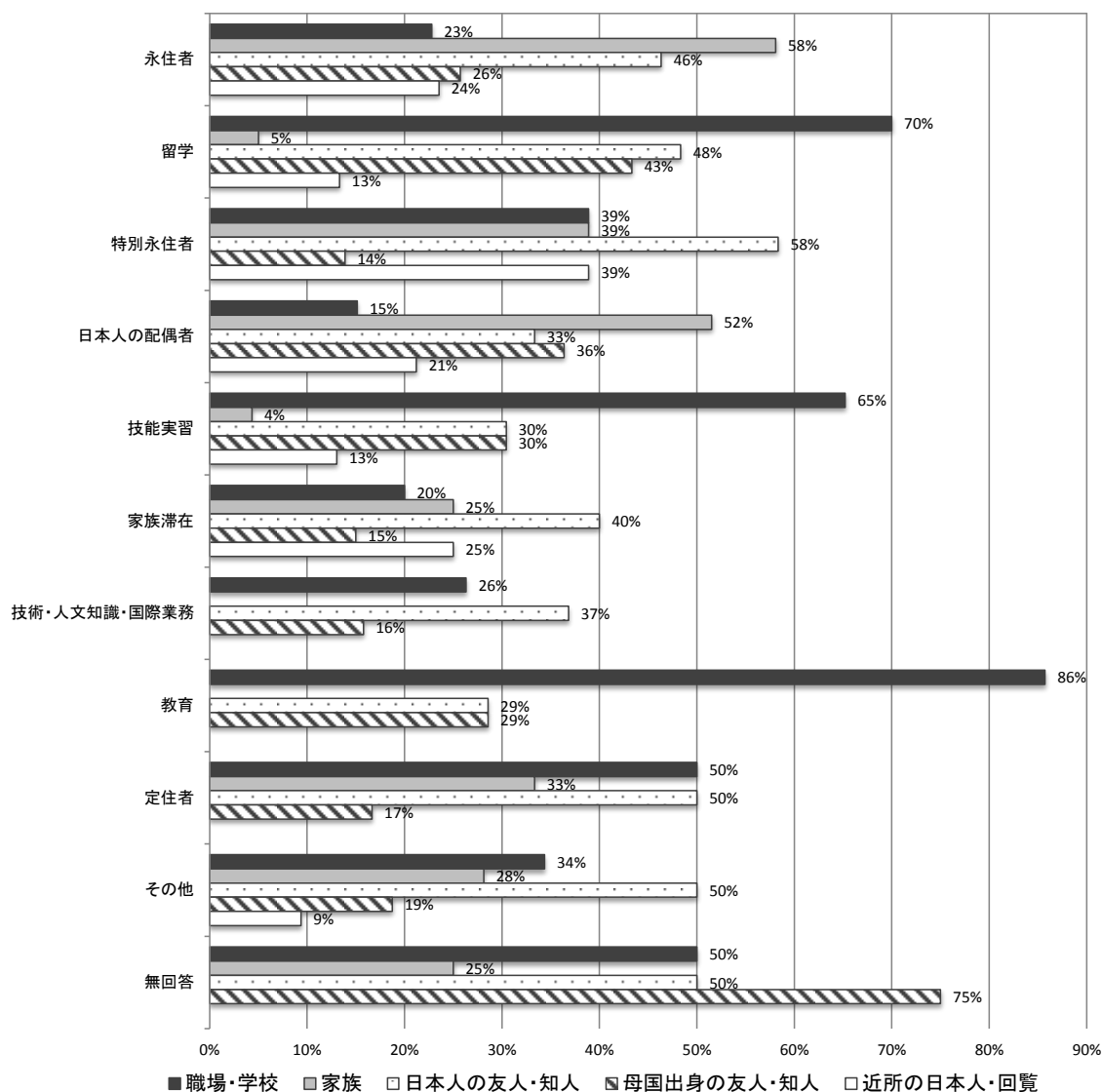


図17-2b 在留資格別生活情報入手手段(ネットワーク)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

機関・団体・その他を用いた情報入手は、相談窓口で家族滞在が15%となったのが最も大きな割合で、大多数は10%未満となっており、全ての在留資格で主要な情報入手の手段として利用されていないことがわかる。入手手段がないは技能実習で9%と、全ての在留資格で10%未満となっている。

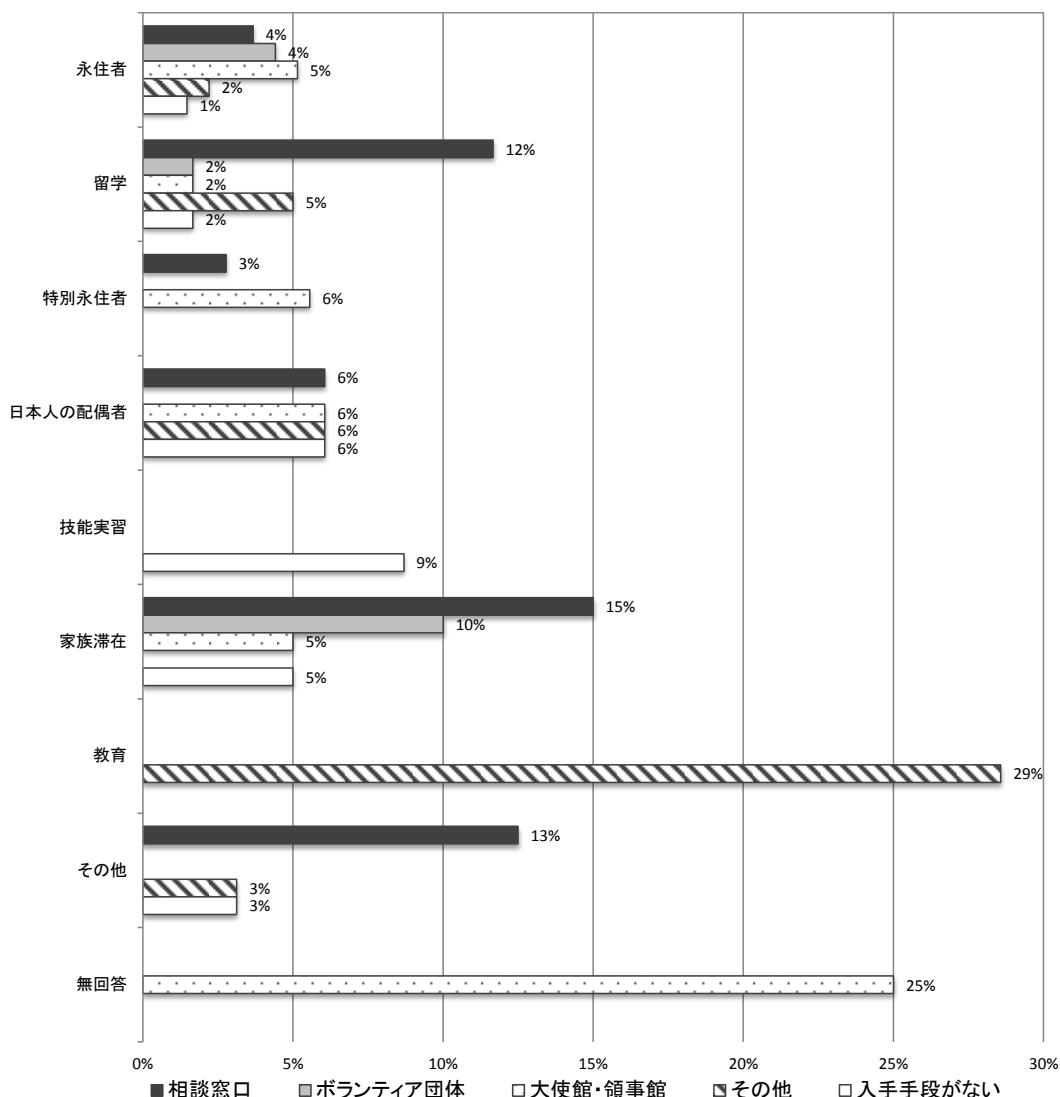


図17-2c 在留資格別生活情報入手手段(機関・団体・その他)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

日本語を読む能力別に各生活情報入手手段の利用割合を見ると、全てのメディアにおいて能力が高いほど割合が高くなる傾向が窺える。テレビ・ラジオでは日本語を読む能力が高い場合は57%となるが、日本語を読む能力が低い場合では34%となっている。新聞・雑誌では日本語を読む能力が高い場合は30%となるが、日本語を読む能力が低い場合では5%となっている。パソコンによるネットでは日本語を読む能力が高い場合は54%となるが、日本語を読む能力が低い場合は29%となっている。携帯によるネットでは日本語を読む能力が高い場合は57%となるが、日本語を読む能力が低い場合は21%となっている。

日本の居住年数別に見ると、居住年数が短いほどテレビ・ラジオ、新聞・雑誌の割合が低くなるのに対し、パソコンによるネット、携帯によるネットは他の区分ほど年数による差は見られない。テレビ・ラジオは1年未満が最も割合が低く4%に留まるが、20年以上では78%と最も割合が高くなっている。新聞・雑誌では5年未満が10%と最も割合が低い、20年以上では割合が51%と最も高い。パソコンによるネットは5年未満が50%と最も高く、20年未満が最も低くて40%となる。携帯によるネットは10年未満が最も高く59%となるが、20年未満では40%と最も低くなっている。

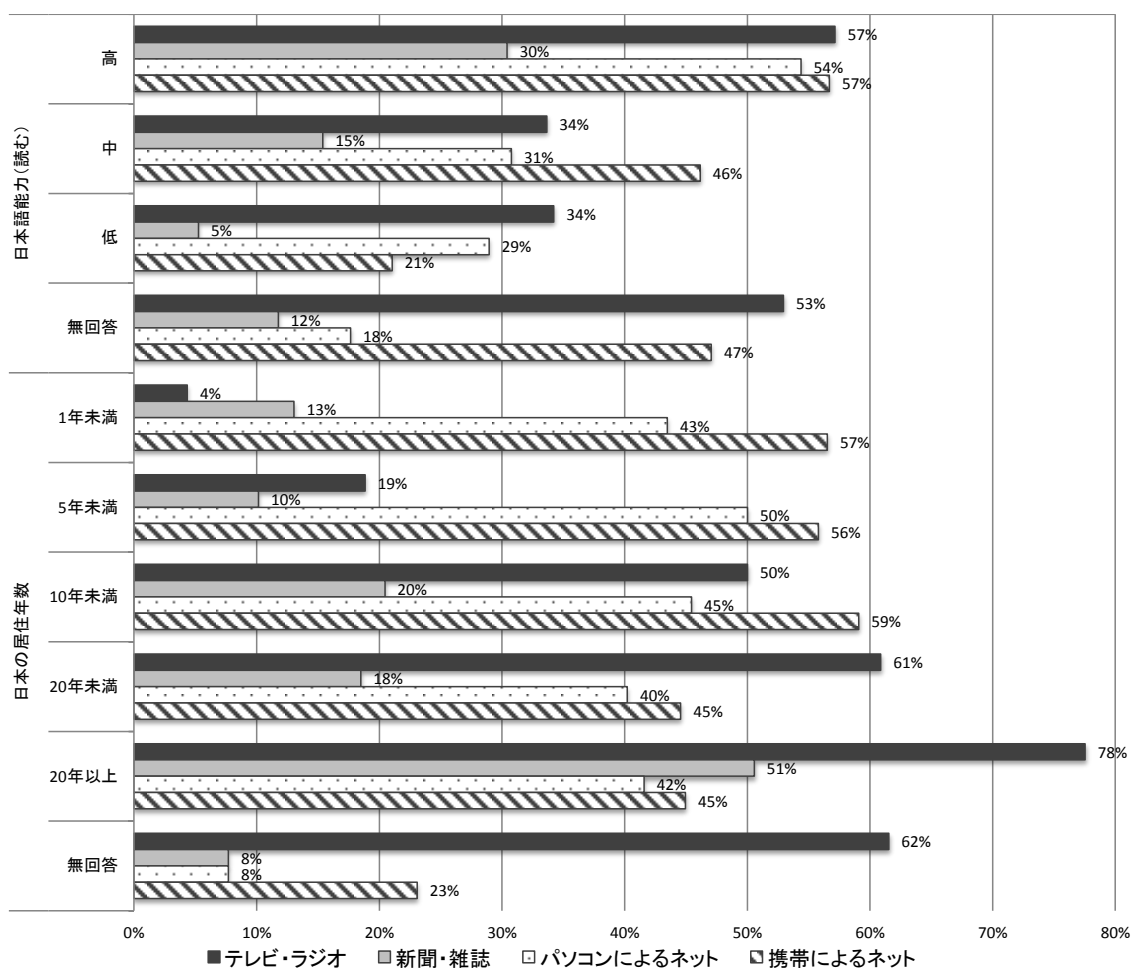


図17-3a 日本語能力・日本居住年数別生活情報入手手段(メディア)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)



ネットワークを用いた生活情報の入手の割合を見ると日本語の読む能力別では、能力の高い人では日本人の友人・知人が49%を占めるなど主要な手段となっているのに対し、日本語能力の低い人では日本の友人・知人は34%となっている。職場・学校は日本語能力の高い人では39%、中程度の人では40%となるが、日本語能力の低い人では26%と割合が低い。一方、家族は日本語能力によって大きな差は見られなかった。また、母国出身の友人・知人は日本語能力が高い人では25%なのに対して、日本語能力の低い人では39%と高い割合を占めるようになっている。近所の日本人・回覧は日本語能力の高い人で24%となるが、日本語能力の低い人では8%と主要な手段にはなっていない。

日本の居住年数別に見ると、職場・学校は1年未満、5年未満では50%以上を占めるのに対して、10年未満、20年未満、20年以上では20%台と大きな差が見られた。これに対して家族は1年未満、5年未満ではおよそ10%に留まるが、居住年数が長くなるにつれ割合が高まり20年未満、20年以上では50%以上となっている。日本人の友人・知人は1年未満では55%と最も高く、5年未満で39%と最も低くなるが、居住年数が長くなるにつれ再び割合が高くなる。母国出身の友人・知人は20年以上では18%と割合が低いものの、他の区分ではおよそ30%の割合となっている。近所の日本人・回覧は20年以上で34%と一定の割合を占めるが、他の区分では10%台と低い割合となっている。

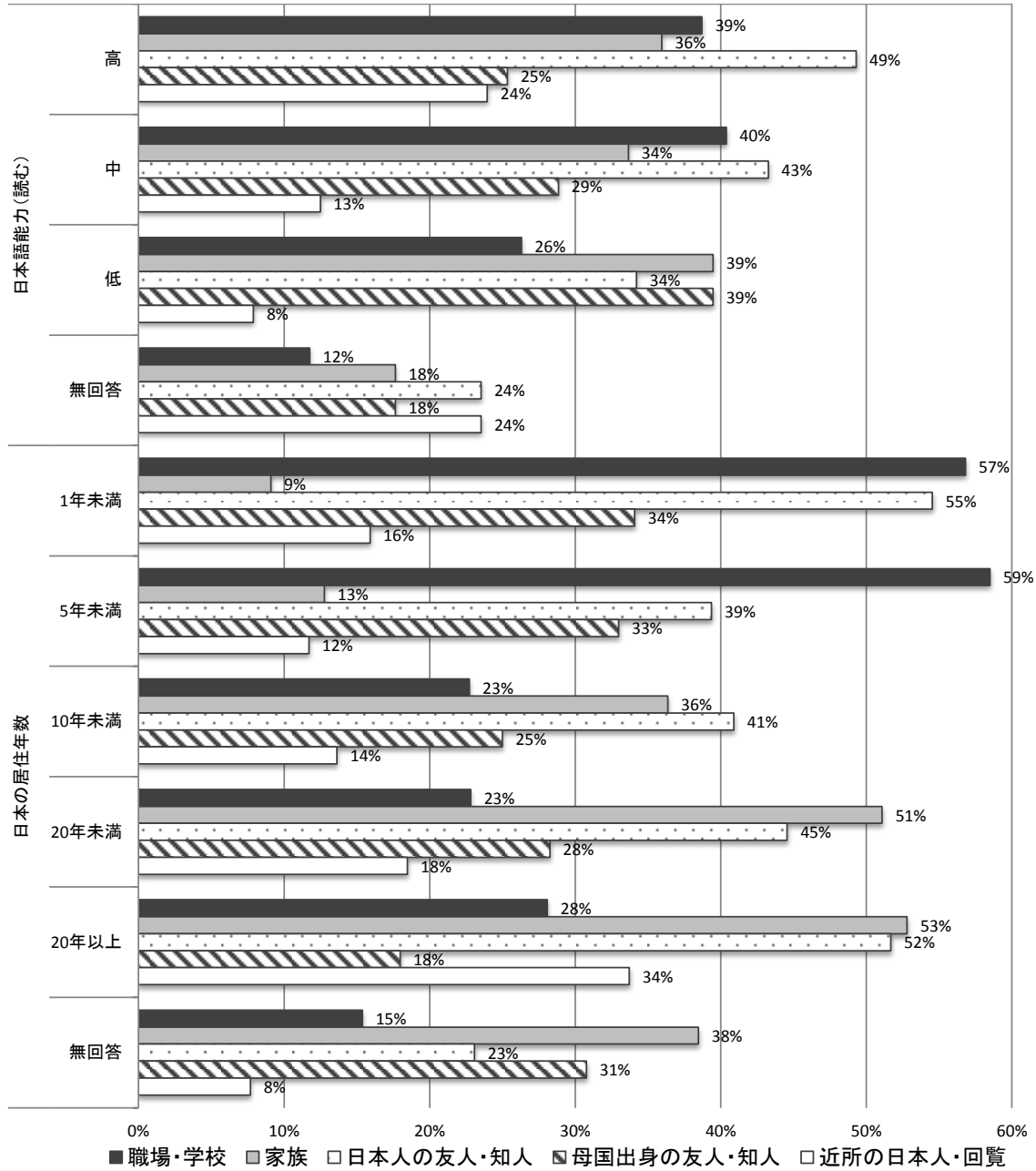


図17-3b 日本語能力・日本居住年数別生活情報入手手段(ネットワーク)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

機関・団体・その他を用いた生活情報入手の割合については、日本語能力の違いによる明確な差は見られない。日本の居住年数別では20年未満で相談窓口が14%となるほか、20年以上で大使館・領事館が18%となっているが、他は10%未満に留まり、主要な手段とはなっていない。

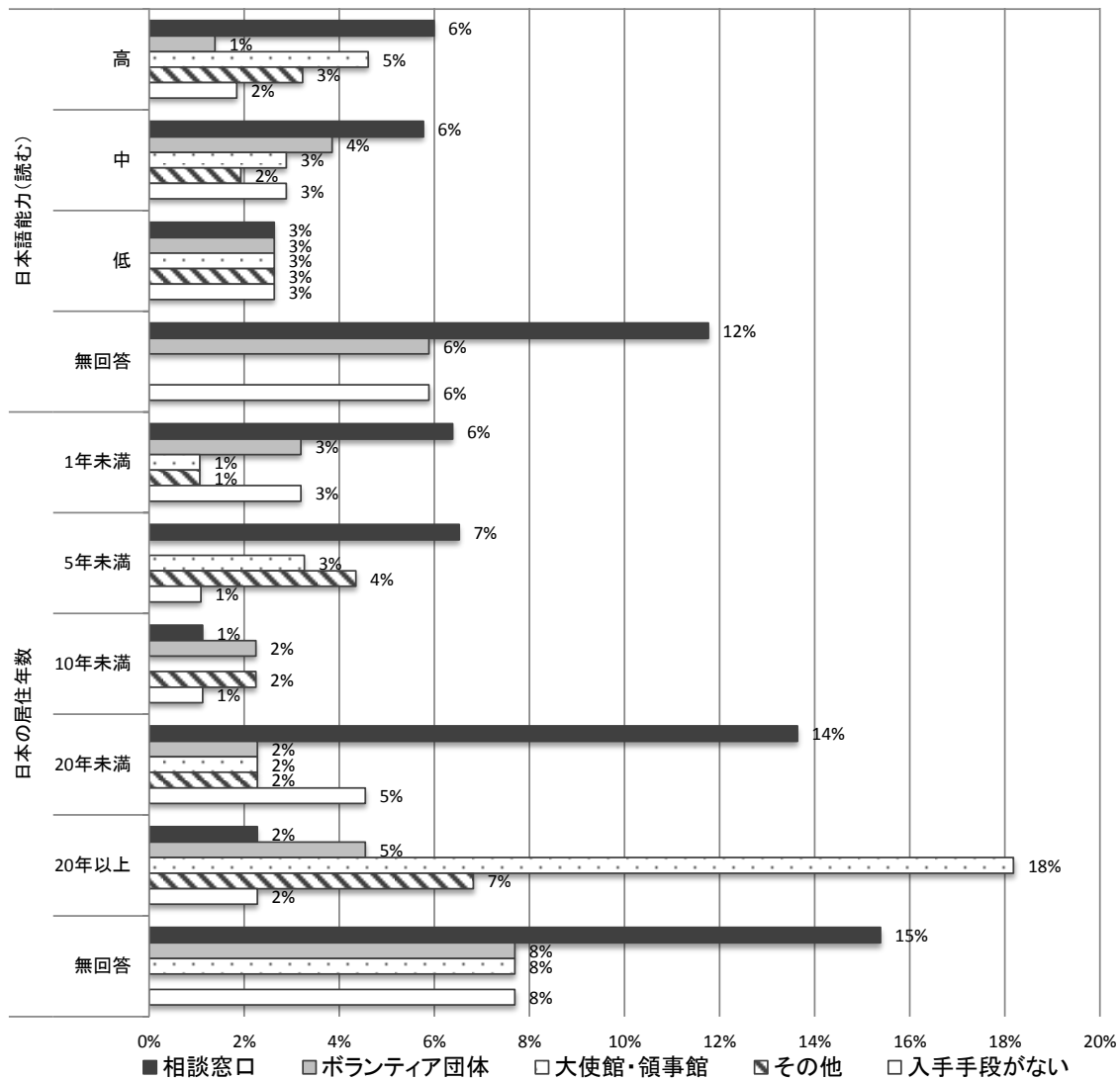


図17-3c 日本語能力・日本居住年数別生活情報入手手段(機関・団体・その他)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)

インターネット等による生活情報入手の割合を年齢別に見ると、20歳代はパソコンによるネットが56%、携帯電話によるネットが66%、職場・学校が62%と全ての年代で最も割合が高く、年代が上がるにつれて割合が低下していく傾向にある。

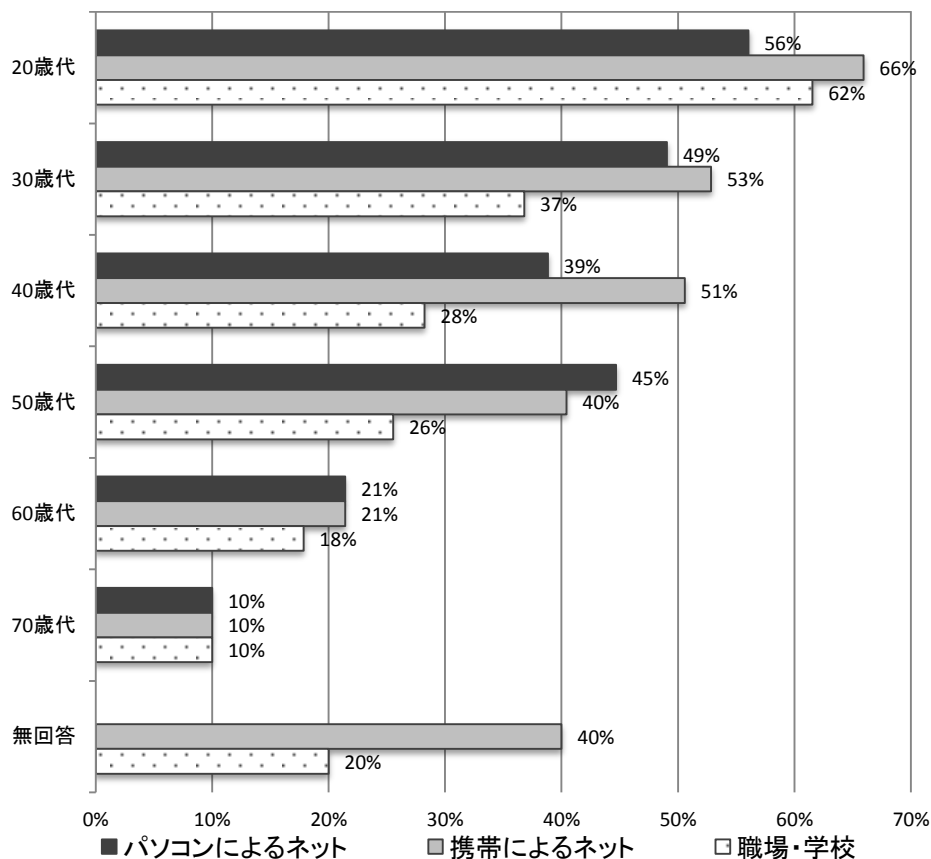


図17-4 年齢別生活情報入手手段(パソコン・携帯電話を用いたインターネット、職場・学校)(N=376、問17に無回答の回答者を除いた割合)